

IntelliStation POWER 9114 モデル 275



インストール・ガイド

IntelliStation POWER 9114 モデル 275



インストール・ガイド

本書および本書記載の製品をご使用になる前に、vii ページの『安全上の注記』、65 ページの『付録 B. 環境に関する注意』、67 ページの『付録 C. 特記事項』をお読みください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは

<http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

お客様の環境によっては、資料中の円記号がバックスラッシュと表示されたり、バックスラッシュが円記号と表示されたりする場合があります。

原 典： SA38-0634-00
IntelliStation POWER 9114 Model 275
Installation Guide

発 行： 日本アイ・ビー・エム株式会社

担 当： ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2003.7

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© International Business Machines Corporation 2003. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2003

目次

安全上の注記	vii
電気製品の安全上の注記	vii
レーザーの安全上の注意	ix
レーザーの適合性.	ix
データの保全と検証.	xi
本書について.	xiii
ISO 9000	xiii
強調表示	xiii
情報を利用する	xiii
AIX オペレーティング・システムの参照.	xiii
関連資料	xiii
人間工学についての情報.	xiv
商標	xiv
第 1 章 システムをセットアップする	1
ステップ 1. 品目を確認する.	1
IntelliStation POWER 9114 モデル 275	1
ステップ 2. 援助が必要ですか ?	3
ステップ 3. 安全上の注記を読む	3
ステップ 4. 給電部をチェックする	4
ステップ 5. 内部オプションはすべて取り付け済みですか ?	4
ステップ 6. システム装置とディスプレイを配置する	4
ステップ 7. 安定脚を調整する	5
ステップ 8. ディスプレイやコンソールのタイプをチェックする.	5
ステップ 9. ディスプレイ・ケーブル・トロイドを取り付ける	6
ステップ 10. グラフィック・ディスプレイを接続する	6
ステップ 11. キーボードとマウスを接続する (グラフィック・ディスプレイを使用する場合)	7
ステップ 12. シリアル・デバイス、パラレル・デバイス、ASCII ターミナルを接続する.	8
ステップ 13. アダプター・ケーブルを接続する.	9
ステップ 14. イーサネット接続をしますか ?	10
ステップ 15. システムに電源ケーブルを接続する.	11
ステップ 16. 後部防音カバーを取り付ける	12
ステップ 17. 電源オン・ボタン・ガードを取り付ける	12
ステップ 18. 電源ケーブルを電源コンセントに接続する	13
ステップ 19. システム・ハードウェアのセットアップは完了	13
ステップ 20. モデル 275 を始動する	14
ステップ 21. システム検証を実行する.	15
ステップ 22. システムの資料を利用する	15
ハードウェアの資料.	15
オペレーティング・システムの資料.	15
第 2 章 ハードウェア操作を検証する.	17
この手順を行う前の考慮事項	17
電源プロシージャ.	17
AIX オンライン診断プログラムをシステムにロードする	18
CD-ROM からスタンドアロン診断プログラムをシステムにロードする	18
ネットワーク・インストール管理 (NIM) サーバーからスタンドアロン診断プログラムを実行する.	18

NIM サーバー構成	19
クライアント構成および NIM サーバーからのスタンドアロン診断プログラムのブート	19
システム検査を実行する	21
その他のシステム検証を行う	21
診断プログラムを停止する	21
インストール済みのファームウェアとアダプターのマイクロコードが最新であるかどうかを検証する	22
システムの資料を利用する	22
ハードウェア資料を利用する	22
システムの資料を利用する	22
第 3 章 オプションを取り付ける	23
静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い	24
オプションと作業のリスト	24
システムを停止させる	25
システムを始動する	25
モデル 275 を保守位置と操作位置にする	26
ベゼル・ドア	26
ベゼル・ドアの取り外し	26
ベゼル・ドアを元のように取り付ける	27
ベゼル	28
前面ベゼルの取り外し	28
前面ベゼルを元のように取り付ける	28
カバー	29
保守用カバーを外す	29
保守用カバーを元のように取り付ける	29
PCI アダプター	30
ホット・プラグ可能でない PCI アダプターの取り外し	30
ホット・プラグ可能ではない PCI アダプターを追加または取り替える	33
ホット・スワップ・システム・ファン	35
ホット・スワップ・システム・ファンの取り外し	35
ホット・スワップ・システム・ファンの取り替え	35
ファン・トレイ・アセンブリー	36
ファン・トレイ・アセンブリーを取り外す	36
ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付ける	38
電源機構	39
電源機構の取り外し	39
電源機構の取り替え	41
電源機構を取り付ける	42
メディア・ドライブ (ディスク、CD-ROM、DVD-ROM、テープ、ディスクの各ドライブ)	43
スリムライン・メディア	43
SCSI メディア・デバイス	44
メディア・ベイ・シャーシ	46
メディア・ベイ・シャーシを取り外す	46
メディア・ベイ・シャーシを元のように取り付ける	46
ディスク・ドライブ・ベゼルとフィラー	47
ディスク・ドライブ・ベゼルをディスク・ドライブに取り付ける	47
ディスク・ドライブまたはフィラーからディスク・ドライブ・ベゼルを取り外す	48
ホット・プラグ・ディスク・ドライブ	49
ディスク・ドライブを構成解除 (取り外す) または構成する	49
ホット・プラグ・ディスク・ドライブの取り外し	51
ホット・プラグ・ディスク・ドライブを取り付ける	53
ディスク・ドライブ・バックプレーン	54

ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り外す	54
ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り付けまたは取り替える	55
メモリー DIMM	56
メモリー DIMM の取り付けと取り替え	56
メモリー DIMM の取り外し	58
サービス・プロセッサ・アセンブリー	59
サービス・プロセッサ・アセンブリーを取り外す	59
サービス・プロセッサ・アセンブリーを元のように取り付ける	59
バッテリーを取り替える	61
 付録 A. 電波障害自主規制への適合性	63
情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示	63
 付録 B. 環境に関する注意	65
製品のリサイクルと廃棄	65
設計における環境の考慮	65
放出騒音	65
放出騒音の公称値	65
 付録 C. 特記事項	67
 付録 D. システムの記録	69
識別番号	69
デバイスの記録	70
メモリー・カード	70
オプション	71
SCSI ID とベイ位置	72
 付録 E. TTY ターミナル使用の際に必要な一般属性	75
通信に関する追加の属性	76
キーボードに関する追加の属性	77
プリンターに関する追加の属性	77
 付録 F. ファームウェアの更新	79
システムのファームウェア・レベルを判別する	79
ローカルで使用可能なイメージを使ってシステム・ファームウェアを更新する	79
 索引	81

安全上の注記

危険 の注記は、死亡または重大な傷害事故を招く可能性があることを示します。危険の注記は、次のページにあります。

- viii
- 4
- 39

注意 の注記は、中度または軽度の人身事故を招く可能性があることを示します。注意の注記は、次のページにあります。

- viii
- ix
- 3
- 5
- 11
- 23
- 61

注: これらの注記の全文が必要な場合は、システム装置の安全上の注記 資料番号 SA23-2652 を参照してください。

電気製品の安全上の注記

ワークステーションにデバイスを接続したり、ワークステーションからデバイスを取り外す場合には、必ず次の安全上の指示に従ってください。

危険

電源コンセントに誤配線があると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧が生じる恐れがあります。感電事故を防ぐため、コンセントが正しく配線され、また接地されていることを確認するのは、お客様の責任です。

信号ケーブルを接続または取り外す前に、システム装置および接続されたすべての装置の電源ケーブルがコンセントから抜いてあることを確認してください。

システムで装置の追加または取り外しを行う場合は、信号ケーブルを接続する前に、その装置の電源ケーブルが電源コンセントから抜いてあることを確認してください。できれば、装置の追加、取り外しを行う前に、現行システムのすべての電源ケーブルを電源コンセントから抜いておいてください。

電位の異なる 2 つの物体の表面に同時に触れると感電することがありますので、信号ケーブルの接続や切り離しは、できるだけ片手で行ってください。

雷雨中には、ディスプレイ、プリンター、電話、通信回線のターミナル保護装置のケーブルを接続しないでください。

D05

注意

この製品には、安全のために 3 線式の電源ケーブルとプラグが装備されています。感電防止のため、このケーブルを正しく接地されている接地極付き電源コンセントに接続してください。

C01

危険

システムの設置場所を替える場合は、感電事故を防ぐために、その前にすべての電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。

D01

レーザーの安全上の注意

注意

この製品には、クラス 1 レーザー製品である CD-ROM、DVD-ROM、または PCI カードのレーザー・モジュールが入っているものがあります。

C30

レーザーの適合性

すべてのレーザーは、米国厚生省 21 連邦規定コード (DHHS 21 CFR) J 項のクラス 1 レーザー製品用の要件に適合することが米国で認証されています。米国外では、クラス 1 レーザー製品として IEC 825 (1984 年第 1 版) に適合することが認証されています。レーザー認証番号と承認情報についてはそれぞれの場所に付けられているラベルで確認してください。

注意

IBM のすべてのレーザー・モジュールは、通常の操作、ユーザーによる保守、スケジュールされた保守状態では、クラス 1 レベルを超えるレーザー放射に人体がさらされることがないように設計されています。データ処理環境には、クラス 1 より高い電圧レベルで作動するレーザー・モジュールが付いているシステム・リンクに伝送する機器が含まれていることがあります。この理由により、光ファイバー・ケーブルの終端や、開いているコンセントをのぞくことは絶対にしないでください。専門の保守担当者のみが、光ファイバー・ケーブル・アセンブリーやコンセントの点検と修理を行うようにしてください。

C25, C26

データの保全と検証

IBM コンピューター・システムには、データの検出不能な損失や消失の可能性を軽減するために設計された機構が組み込まれています。それでも、その危険性を無くすことは不可能です。予期できなかったシステムの停止や故障、電源の変動や停止、あるいはコンポーネントの故障が起きた場合、ユーザーは、その停止または故障の時点、あるいはその直近で行っていたオペレーションの正確性、およびシステムが保管または送信したデータの正確性を検証しなければなりません。また、ユーザーは、機密性の高いあるいは重要なオペレーションにおいて使用されるデータには、個別のデータ検証が確実に行われるような手順を設定しておく必要があります。ユーザーは、システムおよび関連ソフトウェアに適用される最新の情報や修正の入手のために、定期的に **IBM** がサポートしている **Web** サイトをチェックする必要があります。

本書について

本書は IntelliStation POWER 9114 モデル 275 について、システムのセットアップや配線、オプションの取り付けと取り外し、システムの使用、システム操作の検証のための診断プログラムの使用、システム構成の記録の仕方を説明します。

ISO 9000

この製品の開発と製造には、ISO 9000 認証品質保証システムが使用されました。

強調表示

本書では、強調表示について次の規則を使用しています。

太字	コマンド、サブルーチン、キーワード、ファイル、構造、ディレクトリー、およびシステムによって名前が事前定義されているその他の項目を示します。また、ユーザーが選択したボタン、ラベル、アイコンなどのグラフィカルなオブジェクトを示すのにも使用されます。
イタリック	パラメーターを示します。その実際の名前や値はユーザーが指定します。
モノスペース	特定のデータ値についての例、表示されるであろうテキストの例、プログラマーが書くであろうプログラム・コードのある部分の例、システムが出すメッセージの例、ユーザーが実際に入力する情報などを示します。

情報を利用する

IBM @server pSeries の資料はオンラインでも利用可能です。オンライン・ブックの利用は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base にアクセスしてください。

- pSeries の資料を見るには **Hardware documentation** をクリックします。
- @server pSeries のハードウェアや AIX オペレーティング・システムのアクセシビリティ・フィーチャーの情報については **AIX and pSeries accessibility** をクリックしてください。

AIX オペレーティング・システムの参照

本書では、AIX オペレーティング・システムについて言及することがあります。他のオペレーティング・システムを使用している場合は、そのオペレーティング・システムの該当する資料を参照してください。

本書には、ハードウェア・フィーチャーや機能についての記述があります。ハードウェアがサポートしていても、これらのフィーチャーや機能が作動するには、オペレーティング・システムがこれらをサポートしているかどうかによります。AIX にはそのサポートが用意されています。他のオペレーティング・システムを使用している場合は、これらのフィーチャーや機能のサポートについては、そのオペレーティング・システムの該当する資料で確認してください。

関連資料

使用しているシステム装置に関するその他の情報については、次の資料を参照してください。

- *IntelliStation POWER 9114 Model 275 User's Guide* 資料番号 SA38-0635 には、システムや保守援助プログラムを使用するための情報、また簡単な問題を解決するための情報が記載されています。
- *IntelliStation POWER 9114 Model 275 Service Guide* 資料番号 SA38-0636 には、参照情報、保守分析手順 (MAP)、エラー・コード、取り外しおよび再設置手順、部品カタログが記載されています。
- *RS/6000 @server pSeries Diagnostic Information for Multiple Bus Systems* 資料番号 SA38-0509 には、診断情報、サービス要求番号 (SRN)、および障害機能コード (FFC) が記載されています。
- *RS/6000 @server pSeries Adapters, Devices, and Cable Information for Multiple Bus Systems* 資料番号 SA38-0516 には、使用システムのアダプター、デバイス、ケーブルについての情報が記載されています。このマニュアルの目的は、*RS/6000 @server pSeries Diagnostic Information for Multiple Bus Systems* に記載されている保守情報を補完することです。
- *設備とその計画* 資料番号 SA88-6783 には、インストールの計画に役立つ情報が記載されています。
- *システム装置の安全上の注記* 資料番号 SA23-2652 には、本書で使用されている安全上の注意が記載されています。
- *PCI アダプター インストール・ガイド* 資料番号 SA88-6847 には、このシステムで使用できるアダプターのスロットの制約事項に関する情報が記載されています。

人間工学についての情報

システムがセットアップされたら、「Healthy Computing」Web サイトを見ることをお勧めします。人間工学について考慮しておくことは、ワークステーションを快適に使用する上で大変重要です。そうすることによって、ユーザーそれぞれの作業にマッチするように機器と作業場所を調整することができます。

「Healthy Computing」Web サイトは、人間工学に関するガイドラインを示し、コンピューター・ワークステーションで作業する際の人間工学についての考慮事項を知るために援助してくれます。アドレスは次の通りです。 <http://www.us.pc.ibm.com/healthycomputing>

商標

次の用語は、IBM Corporation の商標です。

- AIX
- AIX 5L
- IBM
- pSeries
- @server

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

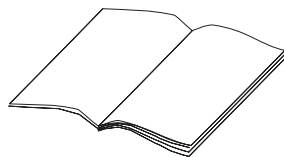
第 1 章 システムをセットアップする

この章の手順に従ってシステムをセットアップします。

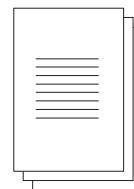
ステップ 1. 品目を確認する

IntelliStation POWER 9114 モデル 275

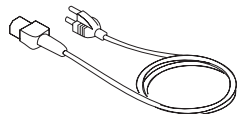
☐ 資料、CD-ROM およびその他のメディア



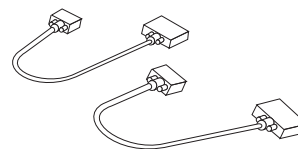
☐ 製品の説明書



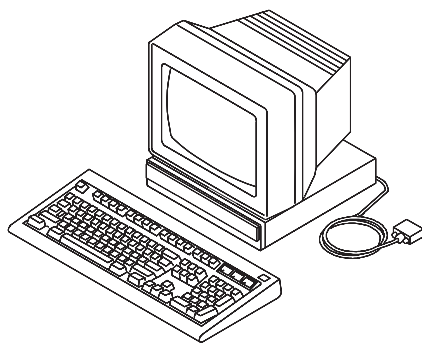
☐ 電源ケーブル (標準 1 本、オプション 2 本)



☐ 9 ピン - 25 ピン・シリアル・コンバーター (2 つ)
(オプション)

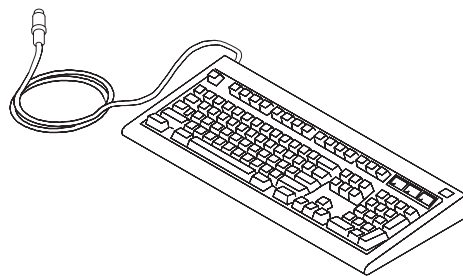
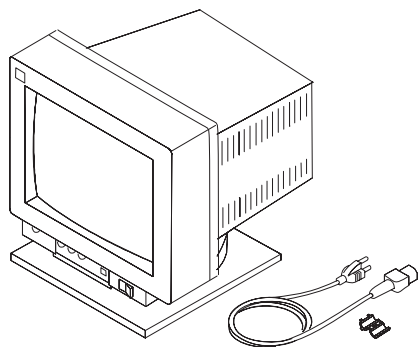


☐ ASCII ターミナル (オプション)

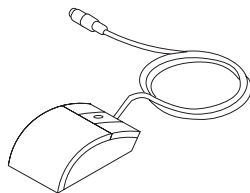


品目テーブル (前ページから続く)

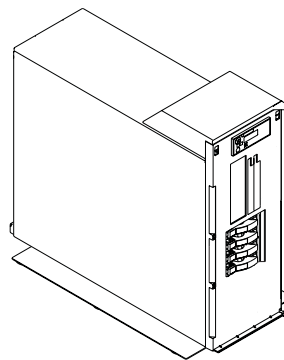
- ☐ ディスプレイ、ケーブル (オプション)、ケーブル・トローイド (オプション) ☐ キーボード (オプション) リスト/パーム・レスト (オプション)



- ☐ マウス (オプション)



- ☐ モデル 275



- ☐ 電源オン・ガード



ステップ 2. 援助が必要ですか？

システム装置のセットアップの際に問題があれば、営業担当員にご相談ください。

ステップ 3. 安全上の注記を読む

先に進む前に、次の安全上の注記をお読みください。この注意事項をお読みになるまでは、システム装置、アダプターまたは電源コンセントにケーブルを接続しないでください。次のステップに進む前に、電源コードが接続されていないことを確認してください。

セットアップするシステムについて、次のことに留意してください。

- AC 電源インターフェース・コネクタは、電源を切るための主装置です。
- このシステムには冗長化電源機能があります。つまり、このシステムは 2 つの電源機構が並行して稼働できる機能を持っています。電源を切るように指示された場合は、必ずすべての電源ケーブルをプラグから外してください。

危険

電源コンセントに誤配線があると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧が生じる恐れがあります。感電事故を防ぐため、コンセントが正しく配線され、また接地されていることを確認するのは、お客様の責任です。

信号ケーブルを接続または取り外す前に、システム装置および接続されたすべての装置の電源ケーブルがコンセントから抜いてあることを確認してください。

システムで装置の追加または取り外しを行う場合は、信号ケーブルを接続する前に、その装置の電源ケーブルが電源コンセントから抜いてあることを確認してください。できれば、装置の追加、取り外しを行う前に、現行システムのすべての電源ケーブルを電源コンセントから抜いておいてください。

電位の異なる 2 つの物体の表面に同時に触れると感電することがありますので、信号ケーブルの接続や切り離しは、できるだけ片手で行ってください。

雷雨中には、ディスプレイ、プリンター、電話、通信回線のターミナル保護装置のケーブルを接続しないでください。

D05

注意

この製品には、安全のために 3 線式の電源ケーブルとプラグが装備されています。感電防止のため、このケーブルを正しく接地されている接地極付き電源コンセントに接続してください。

C01

⚠ 危険

システムの設置場所を替える場合は、感電事故を防ぐために、その前にすべての電源ケーブルをコンセントから抜いておいてください。

D01

ステップ 4. 給電部をチェックする

このシステムには電源機構が 2 つ付いている場合があります。電源機構が 2 つ付いている場合は、システム装置への給電部は 2 つの電源回路に分けるようにしてください。電源をこのようにしておけば、一方の回路が中断しても他方の回路でシステムは稼働し続けることができます。

ステップ 5. 内部オプションはすべて取り付け済みですか？

本書の手順は、内部オプション (アダプター、ディスク・ドライブ、追加メモリーなど) がすでに取り付けられているシステムのためのものです。

まだ取り付けていない内部オプションがある場合は、ここでそれらを取り付けます。 23 ページの『第 3 章 オプションを取り付ける』を参照し、その後でここに戻ります。

ステップ 6. システム装置とディスプレイを配置する

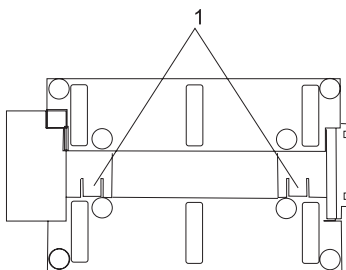
システム装置とディスプレイ (オプション) を設置場所の近くに置きます。

システム装置の位置を決める際には、次のガイドラインを参考にしてください。

- システム装置の重量は、34 kg ～ 41 kg です。システム装置を 1 人で持ち上げないでください。
- ディスプレイと ASCII ターミナルの重量は、35 kg ほどです。ディスプレイや ASCII ターミナルを持ち上げたり移動する際は、注意の注記を参照してください。
- セットアップ手順が安全かつ容易に行えるように、システム装置の周辺には十分なスペースを確保します。
- システム装置の配置では、人間工学についての標準ガイドラインを参考にして、快適で安全に使用できるように配慮します。ワークステーションの配置について、より詳しくは「Healthy Computing」の Web アドレスを見てください。 <http://www.pc.ibm.com/us/healthycomputing>
- システム装置が確実に冷却されるように、システム装置の側面には最低 51 mm のスペースを空け、システム装置の後部には最低 152 mm のスペースを空けておきます。システムの前面には最低 76 mm のスペースが必要です。空気の通り道をふさぐと、システム装置は過熱し誤動作あるいは損傷の原因になります。
- システム装置が必要とする電源コンセントやネットワークの接続口に安全かつ容易に届くような場所に、システム装置を設置します。
- ディスプレイや ASCII ターミナルは、安定した頑丈な場所に設置します。

ステップ 7. 安定脚を調整する

安定脚を引っ込めるには、タブを押し下げプレートの内側にスライドさせます。安定脚を引き出すには、引き込みタブが完全に見えて所定の位置に収まるまでプレートを外側にスライドさせます。



1 安定脚の引き込みタブ (底面図)

⚠ 注意

このシステムには、システム装置が簡単に転倒しないように安定脚が付いています。この安定脚には、標準の調整可能でないものと調整可能な底部安定脚の 2 種があります。必ずこの安定脚を取り付け、十分に延ばして調整してください。

C34

ステップ 8. ディスプレイやコンソールのタイプをチェックする

注:

1. このシステム装置のコンソールとして、キーボード付きの ASCII ターミナルを使用しグラフィック・ディスプレイを接続しない場合は、8 ページの『ステップ 12. シリアル・デバイス、パラレル・デバイス、ASCII ターミナルを接続する』に進みます。
2. キーボードとマウスが付いたグラフィック・ディスプレイを使用する場合は、6 ページの『ステップ 9. ディスプレイ・ケーブル・トロイドを取り付ける』に進みます。

システム装置と一緒にグラフィック・ディスプレイを発注していた場合、グラフィックス・アダプターはそのディスプレイで使用可能な最高の解像度とリフレッシュ速度に設定されています。次のことを行う場合は、下記に従います。

- システム装置に別のディスプレイを接続する

または

- デフォルトのディスプレイ解像度とリフレッシュ速度を変更する

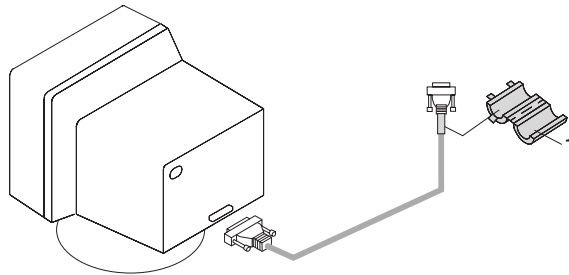
取り付けのステップをすべて完了した後で、*Customer Installable Options Library* (お客様が取り付け可能なオプションのライブラリー) CD-ROM でグラフィックス・アダプターの資料を参照します。

6 ページの『ステップ 9. ディスプレイ・ケーブル・トロイドを取り付ける』に示す通りに、グラフィックス・アダプター・コネクタにディスプレイの背面に付いているグラフィック・ディスプレイ・ケーブルを接続します。取り付けられているアダプターの位置については「製品の説明書」を参照してください。

ご使用になるディスプレイについて詳しくは、ディスプレイに付いている資料を参照してください。

ステップ 9. ディスプレイ・ケーブル・トロイドを取り付ける

ディスプレイのケーブルにトロイドが付いていない場合は、システムと一緒に出荷されたトロイドを見付けて、トロイドに添付されている取り付け手順に従います。



1 ディスプレイ・ケーブル・トロイド

ステップ 10. グラフィック・ディスプレイを接続する

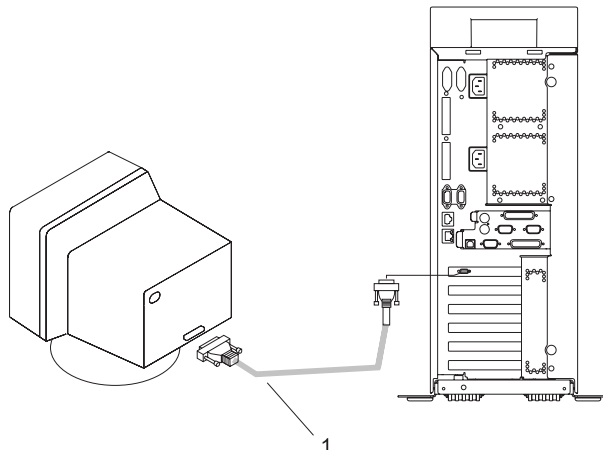
注: このシステム装置のコンソールとして、ASCII ターミナルを使用し、グラフィック・ディスプレイを接続しない場合は、8 ページの『ステップ 12. シリアル・デバイス、パラレル・デバイス、ASCII ターミナルを接続する』に進みます。

『ステップ 9. ディスプレイ・ケーブル・トロイドを取り付ける』に示す通りに、グラフィックス・アダプター・コネクタにディスプレイの背面に付いているグラフィック・ディスプレイ・ケーブルを接続します。取り付けられているアダプターの位置については「製品の説明書」を参照してください。

ご使用になるディスプレイについて詳しくは、ディスプレイに付いている資料を参照してください。

注:

1. PCI 2D グラフィックス・アダプターまたは 3D グラフィックス・アダプターは、6 つの PCI スロットのどれにでも取り付けることができます。
2. ディスプレイによっては、追加のケーブルが必要になることがあります。

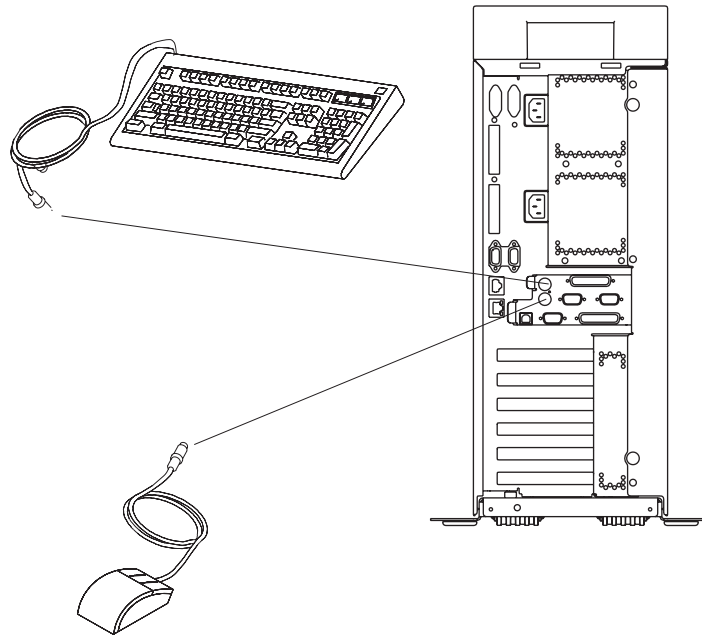


ステップ 11. キーボードとマウスを接続する (グラフィック・ディスプレイを使用する場合)

注: このステップを行う前に、3 ページの『ステップ 3. 安全上の注記を読む』を読み理解してください。

キーボードにリストやパーム・レストが付いており、それを使用する場合は、キーボードの資料の取り付け手順を参照してください。

次の図に示すように、システム装置の背面のコネクタにキーボードとマウスを接続します。



ステップ 12. シリアル・デバイス、パラレル・デバイス、ASCII ターミナルを接続する

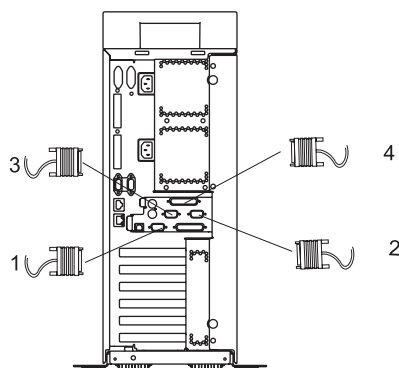
注:

1. このステップを行う前に、3 ページの『ステップ 3. 安全上の注記を読む』を読み理解してください。
2. ローカル ASCII ターミナルを接続するには、ターミナルを背面シリアル・ポートに 9 ピン ~ 25 ピンのシリアル・コンバーター・ケーブルで接続します。この 9 ピン ~ 25 ピンのシリアル・コンバーターはお客様購入のオプションです。
3. リモート ASCII ターミナルがある場合は、それを外部モデムを介してシリアル・コネクタ S1 に接続し、ローカル ASCII ターミナルをシリアル・コネクタ S2 に接続します。

ローカル ASCII ターミナル、またはシリアル・デバイスが 1 台ある場合は、それをシリアル・コネクタ S1 に接続します。

その他のシリアル・デバイスは、システム背面にある、残り 2 つのシリアル・ポート (S2 と S3) に接続できます。

パラレル・デバイス (プリンターなど) があれば、それをパラレル・コネクタに接続します。



- 1 シリアル・ポート 1 コネクタ
- 2 シリアル・ポート 2 コネクタ
- 3 シリアル・ポート 3 コネクタ
- 4 パラレル・コネクタ

シリアル・ポート・コネクタの現在の使用法は次の通りです。

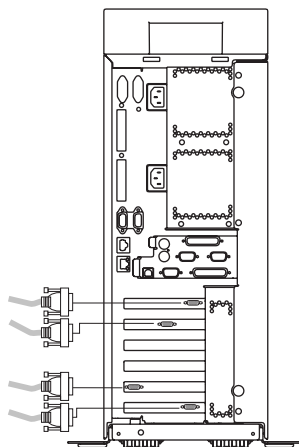
シリアル・ポート番号	位置	適用できる使用の例
シリアル・ポート 1 (S1 背面)	システム背面	サービス・プロセッサ・メニュー、サービス・エージェント、PDA システム管理アプリケーション (インターフェース・ケーブルが必要)、AIX コンソール用 ASCII ターミナル、モデム
シリアル・ポート 2 (S2)	システム背面	サービス・プロセッサ・メニュー、HACMP、AIX コンソール用 ASCII ターミナル、モデム
シリアル・ポート 3 (S3)	システム背面	HACMP、UPS (無停電電源装置)、AIX コンソール用 ASCII ターミナル、モデム

注: シリアル・ポート S1 は、HACMP の実行または UPS の接続には使用できません。UPS を接続し、HACMP を実行するようにシステムを構成する場合、HACMP ケーブルをシリアル・ポート S2 に、UPS ケーブルをシリアル・ポート S3 に接続しなければなりません。UPS をシリアル・ポート S2 に接続して実行しないでください。HACMP の接続を外す場合は、他のアプリケーションの実行を始める前に、ピンホール・リセット・スイッチでサービス・プロセッサをリセットしなければなりません。サービス・プロセッサのピンホール・リセット・スイッチは、オペレーター・パネルにあります。

ステップ 13. アダプター・ケーブルを接続する

注: このステップを行う前に、3 ページの『ステップ 3. 安全上の注記を読む』を読み理解してください。

オプションのアダプター (トークンリングまたは 8 ポート EIA-232 など) を使用する場合は、マシンの PCI スロットにある適切なアダプター・コネクタにケーブルを接続します。取り付けられているアダプターの位置については「製品の説明書」を参照してください。



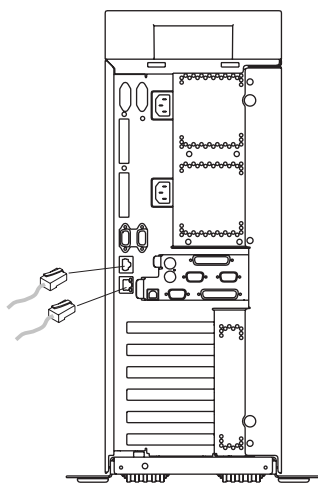
ステップ 14. イーサネット接続をしますか？

イーサネット接続を使用するかどうか不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。イーサネットを使用しない場合、あるいはすでにイーサネットをアダプターに接続してある場合は、11 ページの『ステップ 15. システムに電源ケーブルを接続する』に進みます。

イーサネット・ケーブルの接続は、次のように行います。

注: 対より線コネクタは、IEEE 802.3 イーサネット・ネットワーク 10/100/1000 Base T リンクと互換性があります。

1. 対より線ケーブルを、システム・ドロワー背面にある RJ-45 コネクタ 2 つのどちらかに接続します。RJ-45 コネクタの位置については、次の図を参照してください。
2. これで、対より線イーサネット・ケーブルの取り付けは完了です。11 ページの『ステップ 15. システムに電源ケーブルを接続する』を続けます。

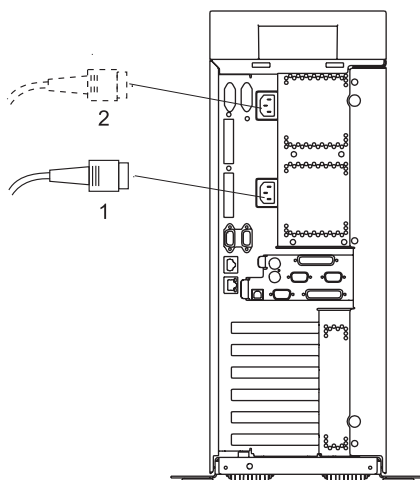


ステップ 15. システムに電源ケーブルを接続する

システム、ディスプレイ、接続デバイスに電源ケーブルを接続します。

注:

1. このシステムには電源機構が 2 つ付いている場合があります。それぞれの電源機構は、専用の電源ケーブルが必要です。
2. システムの電源機構が 1 つの場合、電源ケーブルを電源コンセントにつなぎます。2 番目の (予備の) 電源機構がシステム・ドロワーに追加されている場合、2 番目の電源コンセントが利用可能です。次の図を参照してください。



- 1 1 次電源機構のケーブル
2 冗長化電源機構のケーブル

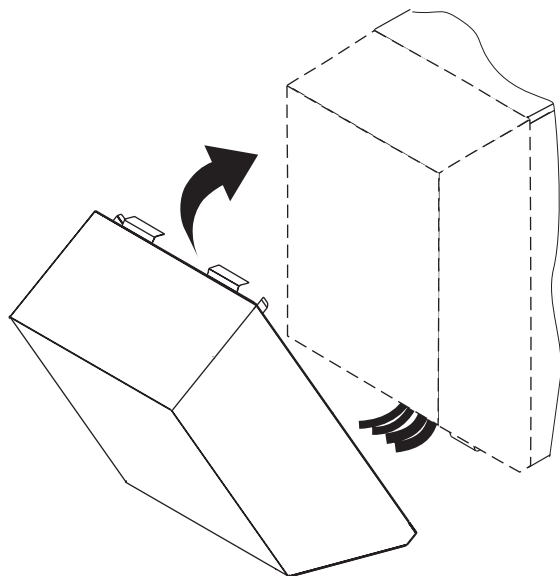
⚠ 注意

この製品には、安全のために 3 線式の電源ケーブルとプラグが装備されています。感電防止のため、このケーブルを正しく接地されている接地極付き電源コンセントに接続してください。

C01

ステップ 16. 後部防音カバーを取り付ける

システム後部に防音カバーを取り付けます。

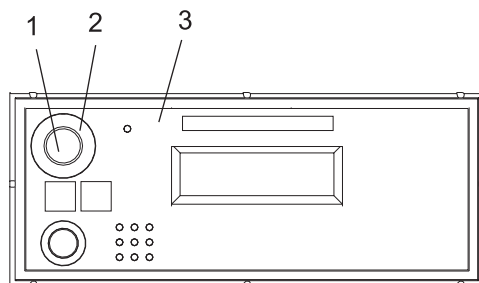


注: システムから出る騒音を抑制するために、後部防音カバーを必ず取り付けてください。

ステップ 17. 電源オン・ボタン・ガードを取り付ける

誤って電源オンや電源オフ操作が行われるのを防ぐため、電源オン・ボタン・ガードを必ず取り付けてください。

電源オン・ボタン・ガードを、オペレーター・パネルにある電源オン・ボタンの周りにしっかりと固定します。次の図を参照してください。



- 1 電源オン・ボタン
- 2 電源オン・ボタン・ガード
- 3 オペレーター・パネル

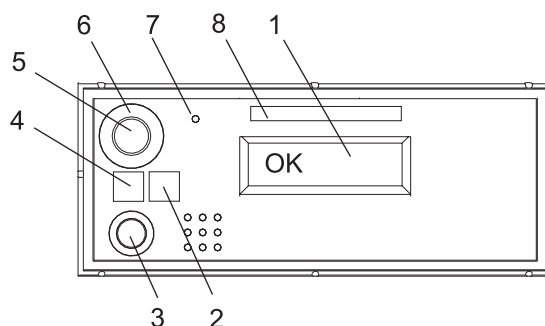
ステップ 18. 電源ケーブルを電源コンセントに接続する

システム装置に電源を接続します。

10 ～ 20 秒後、システムはスタンバイ・モードになります。スタンバイ・モードのインディケータは次のようになります。

- 電源 LED がゆっくりと明滅している
- オペレーター・パネル・ディスプレイに OK が表示されている

次の図はオペレーター・パネル・ディスプレイに OK を表示し、スタンバイ・モードになっているオペレーター・パネルを示します。



- | | |
|---------------------|--------------------------------|
| 1 オペレーター・パネル・ディスプレイ | 5 電源オン・ボタン |
| 2 アテンション LED | 6 電源オン・ボタン・ガード |
| 3 システム・リセット・ボタン | 7 サービス・プロセッサ・リセット・スイッチ (ピンホール) |
| 4 電源 LED | 8 製造番号ラベル |

システムがスタンバイ・モードにならない場合は、すべてのケーブルが正しく接続されているかどうかを確認します。ケーブルに問題がない場合は、サポート・センターに連絡して援助を要請してください。

ステップ 19. システム・ハードウェアのセットアップは完了

システム装置と接続デバイスの配置を使いやすいように調整します。

システムにオペレーティング・システムがプリインストールされている場合は、14 ページの『ステップ 20. モデル 275 を始動する』に進みます。

ここでオペレーティング・システムをインストールする場合は、オペレーティング・システムに用意されているインストール指示に従ってください。

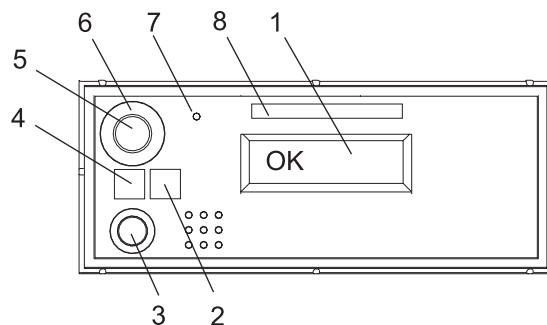
オペレーティング・システムのインストールは、次の内のいずれかの方法で行なわれます。

- CD からインストール (CD-ROM ドライブが必要)。IntelliStation POWER 9114 モデル 275 では、CD-ROM ドライブは、カスタマー・インストール可能オプションです。
- AIX オペレーティング・システムをインストールする場合、NIM (ネットワーク・インストール管理) サーバーから AIX をインストールすることができます。NIM サーバーから AIX をインストールするための情報は、AIX 5L インストール・ガイドおよびリファレンス 資料番号 SC88-6986 を参照してください。他のソフトウェアのインストールには、そのソフトウェアに用意されている資料を参照してください。

ステップ 20. モデル 275 を始動する

次のようにしてシステムの電源を入れます。

1. ベゼル・ドアを開きます。
2. オペレーター・パネルにある電源ボタンを押す前に、次のことを確認します。
 - 電源 LED がゆっくりと明滅している
 - オペレーター・パネルのディスプレイに OK プロンプトが表示されている



- 1 オペレーター・パネル・ディスプレイ
- 2 前部シリアル・コネクタ (FS1)
- 3 アテンション LED
- 4 システム・リセット・ボタン

- 5 電源 LED
- 6 電源オン・ボタン
- 7 電源オン・ガード
- 8 サービス・プロセッサ・リセット・スイッチ (ピンホール)
- 9 製造番号ラベル

3. オペレーター・パネルの電源オン・ボタンを押します。

オペレーター・パネルにある電源オン・ボタンを押した後、次のことを確認します。

 - a. 電源 LED の明滅が速くなっている
 - b. しばらくするとシステムの冷却ファンが作動を始め、モーターの回転速度が速くなっているのが聞こえる

注: 電源オン・ボタンが押されて、電源 LED が明滅から点灯に変わる (明滅しなくなる) までに、30 秒ほどの時間がかかります。

 - c. 電源 LED は点灯したままになっている。checkpoints という進行インディケーターがオペレーター・パネルのディスプレイに表示されている

ステップ 21. システム検証を実行する

1. システムがログイン・プロンプトを表示しており、ハードウェアのテストを行いたい場合は、17 ページの『第 2 章 ハードウェア操作を検証する』に進みます。
2. ログイン・プロンプトが表示されていなければ、インストール手順を再度チェックし、システムを再始動してみます。
3. システムの障害が続くようであれば、担当のサービス技術員に連絡してください。

ステップ 22. システムの資料を利用する

システムのインストールが完了したら、本書をシステム管理者に引き渡してください。システム管理者は必ず次に記述されている情報を読み、この新しいシステムの資料の利用の仕方を習熟してください。

ハードウェアの資料

IBM @server pSeries のハードウェア資料は、オンラインでも利用可能です。オンライン・ハードウェア・ブックの利用は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base にアクセスしてください。そこで **Hardware Documentation** をクリックします。

オペレーティング・システムの資料

AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。

第 2 章 ハードウェア操作を検証する

システム検証手順で、システムのハードウェアが正しく作動するかどうかを検査します。今後、システムで問題が発生した場合にもこの手順を使用してシステム・ハードウェアをテストし、ハードウェア障害を特定するために役立ててください。システム検証手順は以下のステップで実行します。

この手順を行う前の考慮事項

ここでの検証手順は、オンライン AIX 診断プログラムまたは、スタンドアロン AIX 診断プログラムのどちらかを使用します。この手順を行うためには、オンライン AIX 診断プログラムまたは、スタンドアロン AIX 診断プログラムのどちらかが必須です。この手順を行う前に、次の項目に目を通してください。

- このシステム装置が別のシステム装置に直接接続されているか、あるいはネットワークに接続されている場合には、他のシステムとの通信を必ず停止させます。
- この手順では、すべてのシステム・リソースを使用する必要があります。この手順の実行中には、システムで他の活動を実行させることはできません。
- この手順には、グラフィックス・アダプターに接続されたディスプレイ、S1 または S2 ポートに接続された ASCII ターミナルのどれかが必要です。

システムにオンライン AIX 診断プログラムがプリインストールされていますか？

はい 18 ページの『AIX オンライン診断プログラムをシステムにロードする』に進みます。

いいえ 18 ページの『CD-ROM からスタンドアロン診断プログラムをシステムにロードする』に進みます。

電源プロシージャ

この電源プロシージャは、システム検証テストの過程でここに戻り参照します。検証手順で要求されない限り、電源プロシージャを実施しないでください。

オペレーター・パネルによる電源オン方式

オペレーター・パネルの電源ボタンでシステム装置を電源オンするには、次のステップを行います。

1. オペレーター・パネルに OK が表示されていることを確認します。これは、システムがスタンバイ・モードになっていることを示しています。
2. オペレーター・パネルの電源オン・ボタンを押します。

オペレーター・パネルの電源 LED が速く明滅します。9xxx のチェックポイント・コードがオペレーター・パネルに表示されます。

電源オン・シーケンスが完了すると、次のようになります。

- システムのオペレーター・パネルにある電源 LED は明滅を止め、点灯したままになります。
- I/O サブシステムの電源 LED が点灯したままになります。

AIX オンライン診断プログラムをシステムにロードする

ブート用ハード・ディスクからオンライン診断プログラムをサービス・モードで実行するには、次のようにします。

1. オペレーティング・システムを含むすべてのプログラムを停止します (必要であれば援助を要請してください)。
2. すべてのテープ、ディスケット、CD-ROM ディスクを取り出します。
3. システム装置の電源を切ります。
4. システム装置の電源を入れます。
5. ファームウェア・コンソールで **keyboard** POST インディケーターが表示された後、また、最後の POST インディケーターである (**speaker**) が表示される前に、直接接続キーボードか ASCII ターミナルで数字の 6 を押すと、カスタマイズされたサービス・モード・ブート・リストに従い、サービス・モード・ブートを開始することが指示されます。
6. 要求されたパスワードを入力します。

注: DIAGNOSTIC OPERATING INSTRUCTIONS (診断プログラム操作指示) が表示された時点で診断プログラムをロードできない場合は、サポート・センターを呼び援助を要請してください。

CD-ROM からスタンドアロン診断プログラムをシステムにロードする

スタンドアロン診断プログラムを CD-ROM からサービス・モードで実行するには、次のようにします。

注: オペレーティング・システムが Linux の場合、オンライン診断プログラムは利用不能です。

1. オペレーティング・システムを含むすべてのプログラムを停止します (必要であれば援助を要請してください)。
2. すべてのテープ、ディスケット、CD-ROM ディスクを取り出します。
3. システム装置の電源を切ります。
4. システム装置の電源を入れ、即時に診断プログラム CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れます。
5. ファームウェア・コンソールで **keyboard** POST インディケーターが表示された後、また、最後の POST インディケーターである (**speaker**) が表示される前に、直接接続キーボードか ASCII ターミナルで数字の 5 を押すと、デフォルトのサービス・モード・ブート・リストに従い、サービス・モード・ブートを開始することが指示されます。
6. 要求されたパスワードを入力します。

注: DIAGNOSTIC OPERATING INSTRUCTIONS (診断プログラム操作指示) が表示された時点で診断プログラムをロードできない場合は、サポート・センターを呼び援助を要請してください。

ネットワーク・インストール管理 (NIM) サーバーからスタンドアロン診断プログラムを実行する

ネットワーク・インストール管理 (NIM) サーバーでネットワークに接続されているクライアントは、NIM サーバーとクライアント両方におけるクライアント特有の設定が正しい場合、NIM サーバーからスタンドアロン診断プログラムをブートすることができます。

注:

1. NIM サーバーを構成するためのすべての操作で root ユーザー権限が必要です。

2. クライアントのネットワーク・アダプターを置き換える場合、クライアントに対するネットワーク・アダプターのハードウェア・アドレスの設定を NIM サーバーで更新する必要があります。
3. NIM サーバーにあるスタンドアロン診断クライアントのそれぞれの **Cstate** は、*diagnostic boot has been enabled* 状態にしておかねばなりません。
4. クライアント・システムで、NIM サーバーのネットワーク・アダプターは、ブート・リストのブート・ディスク・ドライブの後に入れる必要があります。 こうすることによって、ディスク・ドライブからのブートに問題が生じた場合に、システムが NIM サーバーからスタンドアロン診断プログラムをブートすることができます。 ブートリスト設定の詳細については、クライアント・システムのサービス・ガイドで“SMS”の **Multiboot** のセクションを参照してください。

NIM サーバー構成

以下についての情報は AIX 5L インストール・ガイドおよびリファレンス 資料番号 SC88-6986 の“拡張 NIM 構成タスク”の章に記載されています。

- クライアントを NIM サーバーに登録する。
- クライアントが NIM サーバーから診断プログラムを実行できるようにする。

AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。

クライアント・システムが NIM サーバーに登録されていることと 診断ブートが使用可能であることを確認するには、NIM サーバーのコマンド行から次のコマンドを実行します。 **lsnim -a Cstate -Z ClientName**。 システムの応答については、次のテーブルを参照してください。

注: *ClientName* は、スタンドアロン診断プログラムを実行しようとしているシステムの名前です。

システムの処理時間	クライアントの状況
#name:Cstate: ClientName: diagnostic boot has been enabled:	クライアント・システムは、NIM サーバーに登録されており、NIM サーバーから診断プログラムを実行することができます。
#name:Cstate: ClientName: ready for a NIM operation: または #name:Cstate: ClientName: BOS installation has been enabled:	クライアントは、NIM サーバーに登録されているが、NIM サーバーから診断プログラムを実行することはできない。 注: クライアント・システムは NIM サーバーに登録されているが Cstate が設定されていない場合は、データは何も戻されない。
0042-053 lsnim: there is no NIM object named "ClientName"	クライアントは NIM サーバーに登録されていない。

クライアント構成および NIM サーバーからのスタンドアロン診断プログラムのブート

NIM サーバーからクライアントでスタンドアロン診断プログラムを実行するには、次のようにします。

1. 取り外し可能メディア (テープまたは CD-ROM ディスク) があれば取り出します。
2. オペレーティング・システムを含むすべてのプログラムを停止します (必要であれば援助を要請してください)。

3. スタンドアロン診断プログラムをフル・システム・パーティションで実行している場合は、システム管理者およびシステム・ユーザーに、システム装置をシャットダウンしてよいかどうか確認します。オペレーティング・システムを含むすべてのプログラムを停止します。 **shutdown** コマンドについては、オペレーティング・システムの資料を参照してください。

パーティション・システムでは、CD-ROM ドライブを、スタンドアロン診断プログラムが実行されるパーティションで使えるようにします (詳しくは *IBM pSeries* 用 ハードウェア管理コンソール インストールおよび操作ガイド を参照してください)。システム管理者およびそのパーティションを使用しているシステム・ユーザーに、そのパーティションのすべてのアプリケーションを停止させること、そのパーティションをリブートすることを確認してください。オペレーティング・システムを含み、そのパーティションのすべてのプログラムを停止させます。

4. フル・システム・パーティションの場合、システム装置の電源をオンにしてスタンドアロン診断プログラム実行します。パーティション・システムの場合は、パーティションをリブートしてスタンドアロン診断プログラムを実行します。
5. キーボード・インディケーター (**keyboard** のワード) が表示されたら、キーボードの数字 1 キーを押して SMS メニューを表示させます。
6. 要求されたパスワードを入力します。
7. **Setup Remote IPL (Initial Program Load)** を選択します。
8. クライアント・アドレス、サーバー・アドレス、ゲートウェイ・アドレス (該当する場合)、およびサブネット・マスクを入力します。「Network Parameters」画面に戻ります。
9. NIM サーバーが、クライアント・システムから PING できるようにセットアップされている場合は、RIPL ユーティリティの **PING** ユーティリティを使用して、クライアント・システムが NIM サーバーを PING できることを確認します。**PING** ユーティリティで、PING 操作を行うために、NIM サーバーへの接続を提供するネットワーク・アダプターを選択します。PING が OK プロンプトで戻る場合、クライアントは NIM サーバーからブートする準備が整っています。PING が FAILED プロンプトで戻る場合、クライアントは NIM ブートを行えません。

PING が失敗した場合は、サービス技術員に連絡してください。

NIM サーバー・ネットワークに接続されているネットワーク・アダプターを一回限りブートするには、次のようにします。

1. SMS メイン画面に戻ります。
2. **Select Boot Options** を選択します。
3. **Install or Boot a Device** を選択します。
4. Select Device Type 画面で **Network** を選択します。
5. ブートを行うアダプター用にネットワーク・パラメーターをセットします。
6. SMS を完全に終了します。システムは、ネットワークから **bootp** を行っている間、パケットのロードを開始します。

画面上に指示に従って、システム・コンソールを選択します。

- Diagnostics Operating Instructions Version x.x.x と表示されたら、スタンドアロン診断プログラムが正常にロードされたことになります。
- オペレーティング・システムのログイン・プロンプトが表示されたら、スタンドアロン診断プログラムはロードされていません。次の項目をチェックしてください。
 - クライアントのネットワーク・パラメーターが誤っている可能性がある。
 - NIM サーバーの Cstate が誤っている可能性がある。
 - NIM サーバーに接続できないようなネットワーク問題が起きている可能性がある。

ネットワークの設定および状況を調べてください。問題が続く場合は、サービス技術員に連絡してください。

システム検査を実行する

診断プログラム操作指示が表示されたら、次のようにしてシステム検証を実行します。

1. Enter を押します。
2. ターミナル・タイプ要求された場合は、まず「Function Selection (機能の選択)」メニューで **Initialize Terminal** (ターミナルの初期設定) オプションを使用してオペレーティング・システムを初期設定してから、診断プログラムを実行します。

注: HMC の仮想ターミナルを使用していてターミナル・タイプを定義するよう求められた場合、そのターミナル・デバイスは VT320 と考えられます。

3. 「Diagnostic Mode Selection (診断モードの選択)」メニューで **System Verification** (システムの検査) オプションを選択します。
4. インストールしたすべてのリソースの一般的なチェックアウトを実行する場合は、「Diagnostic Selection (診断の選択)」メニューで **All Resource (全リソース)** オプションを選択します。画面上の指示に従って、チェックアウト手順を実行します。

特定の 1 つのリソースだけをチェックする場合は、「Diagnostic Selection (診断の選択)」メニューでそのリソースを選択します。

チェックアウト・プログラムは、次のどちらかの状態で終了します。

- 「Testing Complete (テスト完了)」画面が No trouble was found (トラブルはなし) のメッセージを表示する。
- 「A Problem Was Detected On (Time Stamp) ((タイム・スタンプ) に問題が検出された)」メニューが表示され、サービス要求番号 (SRN) か、エラー・コードを示す。ディスプレイまたはオペレーター・パネルに表示されたコードを記録しておきます。

他のシステム検証を行う場合は『その他のシステム検証を行う』に進みます。診断プログラムを終了する場合は『診断プログラムを停止する』に進みます。

その他のシステム検証を行う

その他のシステム検証は、次のようにして行います。

1. Enter キーを押して、「Diagnostic Selection (診断の選択)」メニューへ戻ります。
2. 他のリソースをチェックする場合は、そのリソースを選択します。必要なチェックをすべて完了したら、『診断プログラムを停止する』に進みます。

診断プログラムを停止する

診断プログラムの停止は、次のようにします。

1. F3 キー (定義済みターミナルの場合) または 99 (未定義ターミナルの場合) を押して診断プログラムを終了します。
2. 診断プログラムを実行するためにターミナルの属性を変更していた場合は、その設定を通常の設定に戻します。
3. これでシステム検証は終了です。

サーバーがすべての診断テストにパスしていれば、検証プロセスはこれで完了で、サーバーは使用可能になっています。

インストール済みのファームウェアとアダプターのマイクロコードが最新であるかどうかを検証する

このセクション記載の手順で、システムにインストール済みのファームウェアやアダプターのマイクロコードが最新かどうかを検証します。ファームウェアとマイクロコードは、次のソースのいずれかから入手可能です。

- Web サイト:

<http://techsupport.services.ibm.com/server/mdownload2/download.html>

Web サイトの指示に従い、システムのファームウェア・レベルの確認と最新レベルのコードのダウンロードを行います。アダプターとドライブのマイクロコード・パッケージもこの Web サイトで入手できます。

- カレント・オブジェクト・リポジトリ (CORE):

CORE にアクセス可能であれば、次のようにしてファームウェアとマイクロコードを入手します。

1. 「Current Object Repository (CORE)」にアクセスします。
2. **CORE Product Family** と **eServer pSeries - RS/6000** を選択します。
3. **CORE Machine Type** と **pSeries - RS/6000 - Microcode-System/Service** を選択します。

システムの資料を利用する

システムのインストールが完了したら、本書をシステム管理者に引き渡してください。システム管理者は必ず次に記述されている情報を読み、この新しいシステムの資料の利用の仕方を習熟してください。

ハードウェア資料を利用する

IBM @server pSeries の資料はオンラインでも利用可能です。オンライン・ブックの利用は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base にアクセスしてください。

- pSeries の資料を見るには **Hardware documentation** をクリックします。
- @server pSeries のハードウェアや AIX オペレーティング・システムのアクセシビリティ・フィーチャーの情報については **AIX and pSeries accessibility** をクリックしてください。

システムの資料を利用する

AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。

第 3 章 オプションを取り付ける

この章では、モデル 275 システムにオプションを取り付ける手順を説明します。

注:

1. オプションをモデル 275 に取り付ける場合、システムを縦置きまたは横置きのいずれの位置にしても可能です。
2. この章で述べる取り付けの手順を行う前に、次の注意事項をお読みください。

これからオプションを取り付けるシステムについて:

- AC 電源インターフェース・コネクタは、電源を切るための主装置です。
- このシステム装置には冗長化電源が用意されており、同じシステム装置内で 2 つの電源機構が同時に稼働する機能をもっています。電源を切るように指示された場合は、必ずすべての電源ケーブルをプラグから外してください。

危険

電源コンセントに誤配線があると、システムまたはシステムに接続されている装置の金属部分に危険な電圧が生じる恐れがあります。感電事故を防ぐため、コンセントが正しく配線され、また接地されていることを確認するのは、お客様の責任です。

信号ケーブルを接続または取り外す前に、システム装置および接続されたすべての装置の電源ケーブルがコンセントから抜いてあることを確認してください。

システムで装置の追加または取り外しを行う場合は、信号ケーブルを接続する前に、その装置の電源ケーブルが電源コンセントから抜いてあることを確認してください。できれば、装置の追加、取り外しを行う前に、現行システムのすべての電源ケーブルを電源コンセントから抜いておいてください。

電位の異なる 2 つの物体の表面に同時に触れると感電することがありますので、信号ケーブルの接続や切り離しは、できるだけ片手で行ってください。

雷雨中には、ディスプレイ、プリンター、電話、通信回線のターミナル保護装置のケーブルを接続しないでください。

D05

注意

この製品には、安全のために 3 線式の電源ケーブルとプラグが装備されています。感電防止のため、このケーブルを正しく接地されている接地極付き電源コンセントに接続してください。

C01

注意

この装置には複数の電源コードが付いています。感電事故のリスクを減らすために、保守サービスの前に 2 本の電源コードを外してください。

C21

静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い

重要: 電子回路ボード、ディスク・ドライブおよびディスク・ドライブは、静電気の放電による影響を受けやすいデバイスです。損傷を防ぐため、これらのデバイスは帯電防止バッグに入れておいてください。

次の事前注意事項を守ってください。

- 帯電防止リスト・バンドを持っていれば、デバイスを取り扱う間はそれを着用します。
- システムにデバイスを取り付ける準備が整うまでは、帯電防止バッグからデバイスを取り出さないでください。
- デバイスを帯電防止バッグに入れたまま、それをシステムの金属フレームに触れさせます。
- カードやボードは端を持ちます。ドライブはフレームを持ちます。はんだ付けされた接合部やピンには触れないでください。
- 帯電防止バッグから出した後でデバイスをどこかに置く必要が生じた場合は、帯電防止バッグの上に置きます。再度そのデバイスを持つ際は、その前に帯電防止バッグとシステムの金属フレームに同時に触れてからデバイスを持ちます。
- 修復不能な損傷を防ぐため、デバイスは注意深く取り扱ってください。

オプションと作業のリスト

次のテーブルのリストで必要な手順を迅速に見つけることができます。

オプション/作業	オプション名/作業名と記載ページ
アダプター	30 ページの『PCI アダプター』
バッテリーの取り替え	61 ページの『バッテリーを取り替える』
ベゼル	28 ページの『ベゼル』
ベゼル・ドア	26 ページの『ベゼル・ドア』
カバー	29 ページの『カバー』
ディスク・ドライブ	49 ページの『ホット・プラグ・ディスク・ドライブ』
ディスク・ドライブ・バックプレーン	54 ページの『ディスク・ドライブ・バックプレーン』
ディスク・ドライブ・ベゼルとフィラー	47 ページの『ディスク・ドライブ・ベゼルとフィラー』
ホット・スワップ・システム・ファン	35 ページの『ホット・スワップ・システム・ファン』
ファン・トレイ・アセンブリー	36 ページの『ファン・トレイ・アセンブリー』
メディア・ドライブ	43 ページの『メディア・ドライブ (ディスク、CD-ROM、DVD-ROM、テープ、ディスクの各ドライブ)』

オプション作業	オプション名/作業名と記載ページ
メディア・ベイ・シャーシ	46 ページの『メディア・ベイ・シャーシ』
メモリー DIMM	56 ページの『メモリー DIMM』
電源機構	39 ページの『電源機構』
サービス・プロセッサ・アセンブリ	59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリ』
システムを始動する	『システムを始動する』
静電気の影響を受けやすいデバイス	24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』
システムを停止する	『システムを停止させる』

システムを停止させる

重要: オプションを取り付けるためにシステムをシャットダウンする場合は、最初にすべてのアプリケーションをシャットダウンして、それからオペレーティング・システムをシャットダウンします。オペレーティング・システムがシャットダウンされると、システムの電源が切れ、システムはスタンバイ・モードになります。システムの電源を切る前に、必ずシャットダウン処理を完了させます。そうしないと、データが失われるおそれがあります。オプション取り付け手順によっては、取り付けのためにシステムを停止する必要があるものもあります。オプション取り付け手順は、システムの停止が必要な場合はその時点でそうするよう指示をします。

1. システムに root ユーザーでログインします。エラー・コードがオペレーター・パネル・ディスプレイに表示されていれば、それを記録します。
2. システムで実行中のすべてのアプリケーションを停止するようシステム管理者に要請します。
3. コマンド行に shutdown と入力するよう、アドミニストレーターに要請します。
4. オペレーティング・システムをシャットダウンしたら、接続されているすべての装置の電源スイッチをオフにします。

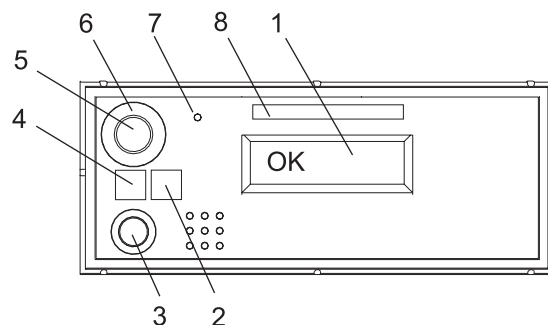
システムを始動する

次のようにしてシステムの電源を入れます。

1. ベゼル・ドアを開きます。
2. システム装置に電源が接続されていることを確認します。
オペレーター・パネルにある電源オン・ボタンを押す前に、次のことを確認します。
 - 電源オン LED がゆっくりと明滅している
 - オペレーター・パネルのディスプレイに OK プロンプトが表示されている
3. オペレーター・パネルの電源オン・ボタンを押します。
オペレーター・パネルにある電源オン・ボタンを押した後、次のことを確認します。
 - a. 電源 LED の明滅が速くなっている
 - b. しばらくするとシステムの冷却ファンが作動を始め、モーターの回転速度が速くなっているのが聞こえる

注: 電源オン・ボタンが押されて、電源 LED が明滅から点灯に変わる (明滅しなくなる) までに、30 秒ほどの時間がかかります。

- c. 電源 LED が点灯したままになり、*checkpoints* という進行インディケーターがオペレーター・パネルのディスプレイに表示されている



- | | |
|---------------------|---------------------------------|
| 1 オペレーター・パネル・ディスプレイ | 5 電源オン・ボタン |
| 2 アテンション LED | 6 電源オン・ボタン・ガード |
| 3 システム・リセット・ボタン | 7 サービス・プロセッサー・リセット・スイッチ (ピンホール) |
| 4 電源 LED | 8 製造番号ラベル |

モデル 275 を保守位置と操作位置にする

モデル 275 は、システム装置内部の作業がし易いように側面を下にして置くか、または側面を外して直立させておくことができます。作業が終わったら、元のようにカスタマーの操作ができる位置に戻します。

ベゼル・ドア

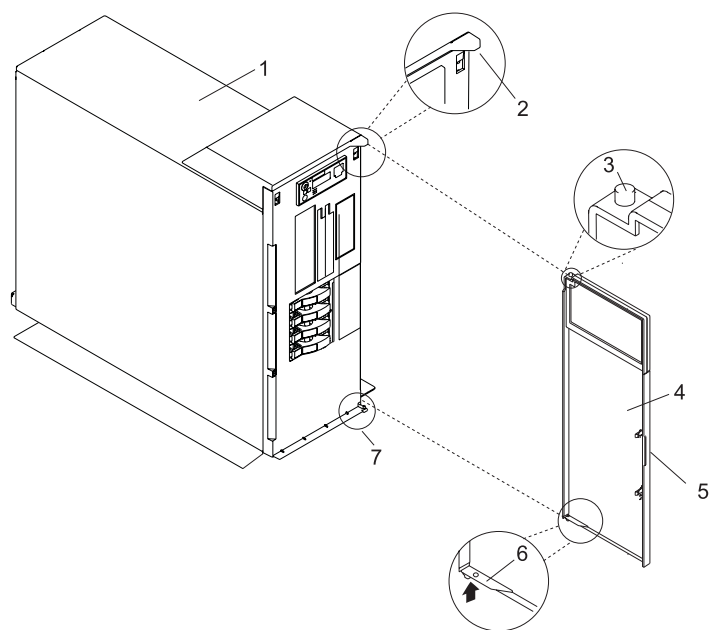
以下の手順で、ベゼル・ドアの取り外しと元通りに取り付けることを説明します。

ベゼル・ドアの取り外し

次の図を見てここの手順をステップ通りに行ってください。

ベゼル・ドアを外すには、次のようにします。

1. ドア・ハンドルを握ってベゼル・ドアを開きます。ベゼル・ドアを回してシステムから引き出します。
2. ドア下部にあるベゼル・ドア・リリース・タブ引き上げ、支柱が見えるようにします。
3. ドア下部を静かに前方に回してシステム下部から外します。
4. ドアを下に引いて上部支柱をベゼルから外します。



- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1 モデル 275 | 4 ベゼル・ドア |
| 2 システム・ハンドル・アセンブリー支柱穴 | 5 ベゼル・ドアのハンドル |
| 3 ベゼル・ドアの上部支柱 | 6 ベゼル・ドア・リリース・タブ |
| | 7 ベゼル・ドアの下部支柱 |

ベゼル・ドアを元のように取り付ける

ベゼル・ドアを元のように取り付けるには、次のようにします。

1. 上部支柱をシステム・ハンドル・アセンブリー支柱保持穴に入れます。上図を参照してください。
2. ドアのリリース・タブを引き上げ、ドアを下部支柱の方に回します。
3. ベゼル・ドアをシステム下部に向けて回します。
4. ベゼル・ドアを閉じます。

ベゼル

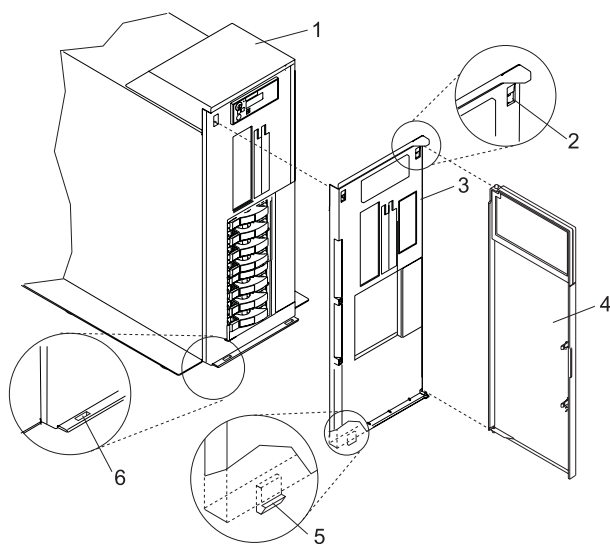
以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

前面ベゼルの取り外し

次の図を見てこの手順をステップ通りに行ってください。

前面ベゼルを外すには、次のようにします。

1. 26 ページの『ベゼル・ドア』の説明に従い、ベゼル・ドアを外します。
2. 青色のベゼル・リリース・レバー 2 つを押し下げます。
3. ベゼル上部を引き出しシステム・シャシーから外します。
4. ベゼルの静かに引き上げてベゼルの下部ロック・タブを外します。
5. ベゼルとベゼル・ドアを安全な場所に置いておきます。



- 1 モデル 275
- 2 ベゼル・リリース・レバー
- 3 前面ベゼル

- 4 前面ドア
- 5 ベゼルの下部ロック・タブ (2 つ)
- 6 ベゼルの下部支持スロット (2つ)

前面ベゼルを元のように取り付ける

前面ベゼルを元のように取り付けるには、次のようにします。

1. ベゼルの下部ロック・タブ 2 つを、シャシー底部の支持スロットに収めます。
2. ベゼルのシャシー上部に向けて回転させ、位置合わせピンがシャシーの対応する穴に合うようにします。
3. ベゼルの青色のベゼル・リリース・レバー 2 つがそれぞれのスロットに収まるまで静かに押し込みます。
4. 26 ページの『ベゼル・ドア』の説明に従い、ベゼル・ドアを元のように取り付けます。

カバー

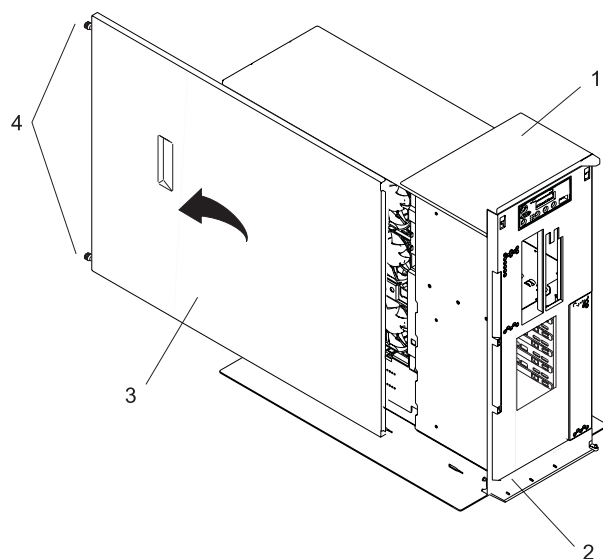
以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

保守用カバーを外す

保守用カバーを外すには、次のようにします。

1. カバー後部の固定用つまみねじ 2 本を緩めます。つまみねじの位置については、次の図を参照してください。
2. カバーをシステム・ドロワー後方にスライドさせます。保守用カバーがスライドしてシャシー前部の縁が見えるようになったら、カバーを持ち上げシステム装置から外します。

重要: 冷却と換気が適切に行われるためにシステムの電源を入れる前にカバーを元通りに取り付けてください。カバーが外された状態でシステムを一定時間以上 (30 分) 稼働させると、システムのコンポーネントが損傷する恐れがあります。



1 モデル 275
2 シャシー前部縁

3 保守用カバー
4 つまみねじ

保守用カバーを元のように取り付ける

保守用カバーを元のように取り付けるには、次のようにします。

1. 保守用カバーをシステムのサイドに、システム前部から約 25 mm 離して合わせます。カバーの上端と下端にあるフランジがシステム・シャシーにはまります。
2. 保守用カバーをシステム・ドロワーに合わせ、システム前方に向かってスライドさせます。保守用カバーの前端がシャシー縁の下に入ります。
3. カバー後部の固定用つまみねじ 3 本を締めます。

PCI アダプター

以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

注:

1. 一部の PCI アダプター・カードは、カードの後部の端に青いハンドルまたはサポートが付いて製造元から配送されています。このシステム装置で使用するには、カードから青いハンドルまたはサポートを取り外す必要があります。
2. アダプターの取り付けでは、システムの電源を切らなければなりません。ホット・プラグ可能 PCI アダプターはサポートされていません。

ホット・プラグ可能でない PCI アダプターの取り外し

PCI アダプターを外すには、次のようにします。

1. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. システムの電源を切ります。

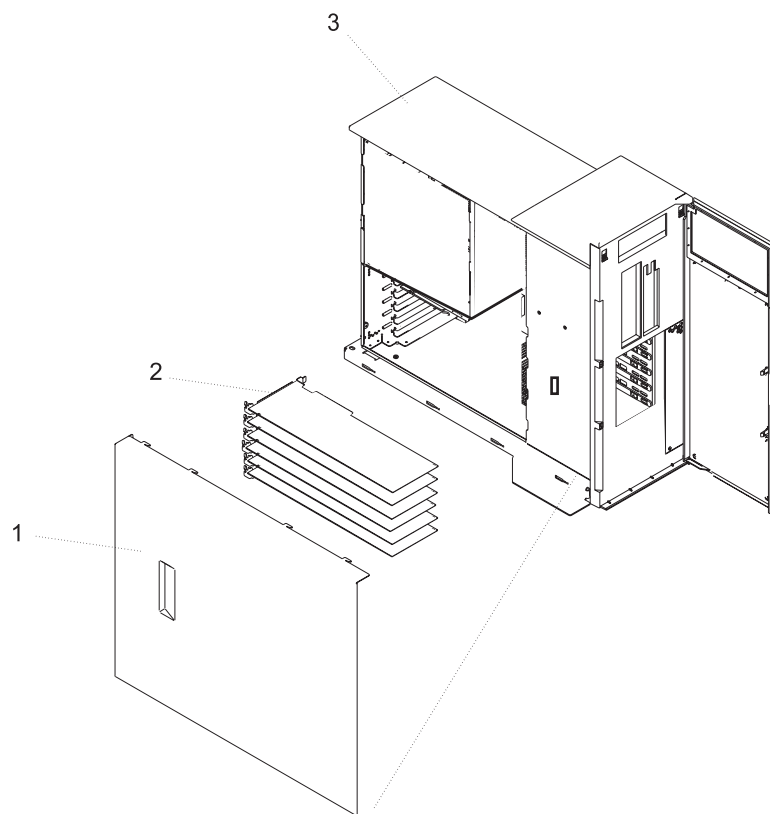
注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

4. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
5. 取り外すアダプターを判別し、そのアダプターに接続されたケーブルすべてにラベルを付け、外します。
6. 取り外すアダプターのスロット番号と位置を記録しておきます。

注: アダプター・スロットはシステム装置の背面に番号付けされています。

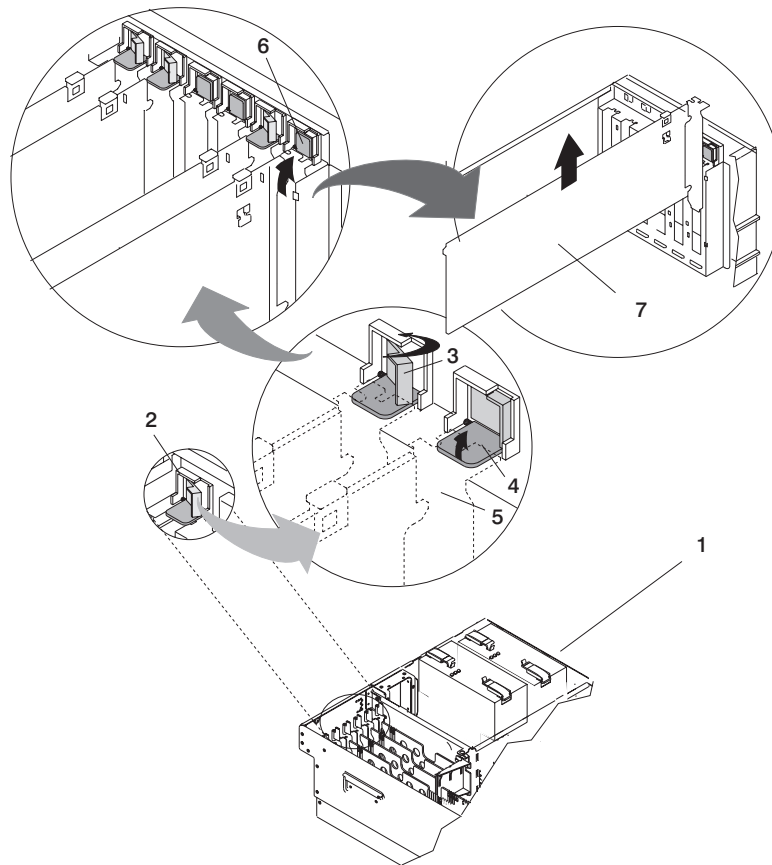
7. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。

8. 長尺のアダプターを取り外す場合は、アダプターの後端が、PCI アダプター・スロット背面にある溝にどの程度スライドしていたかをメモしておきます。



- 1 保守用カバー
- 2 PCI アダプター
- 3 システム装置

9. アダプター保持クリップを、次の図に示すように反時計方向に回転させます。



1 モデル 275

2 アダプター保持アセンブリー

3 アダプター保持アセンブリー (保持シートは
下げられ、保持クリップはロック位置に)

4 アダプター保持アセンブリー (保持シートは
下げられ、保持クリップはアンロック位置に)

5 PCI アダプター・フェース・プレート (点線
で示す)

6 アダプター保持アセンブリー (アンロック位
置になっている)

7 PCI アダプター

10. アダプター保持ブラケットにあるタブは、ばねの力で垂直位置になり、アダプター保持ラッチの隣に来ています。
11. PCI アダプターの上端か上部コーナーを注意して持ち、システムから取り外します。アダプターを安全な場所に保管します。
12. 空いているスロットに別のアダプターを取り付けることがないのならば、拡張スロット・カバーで拡張スロットを閉じ、次のステップを続けます。別のアダプターを取り付けるのであれば 33 ページの『ホット・プラグ可能ではない PCI アダプターを追加または取り替える』に進みます。
13. 他にも取り付けるオプションがあれば、24 ページの『オプションと作業のリスト』を参照してください。取り付けるオプションが他にはなければ、次のステップに進みます。
14. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
15. アダプター・ケーブルを接続します。
16. システムに電源を接続します。

17. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
18. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムの電源を入れます。
19. 前のステップでベゼル・ドアを外していた場合は、ドアを元のように取り付けます。

ホット・プラグ可能ではない PCI アダプターを追加または取り替える

アダプターを追加または取り替えるには、次のようにします。

1. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. システムの電源を切ります。

注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

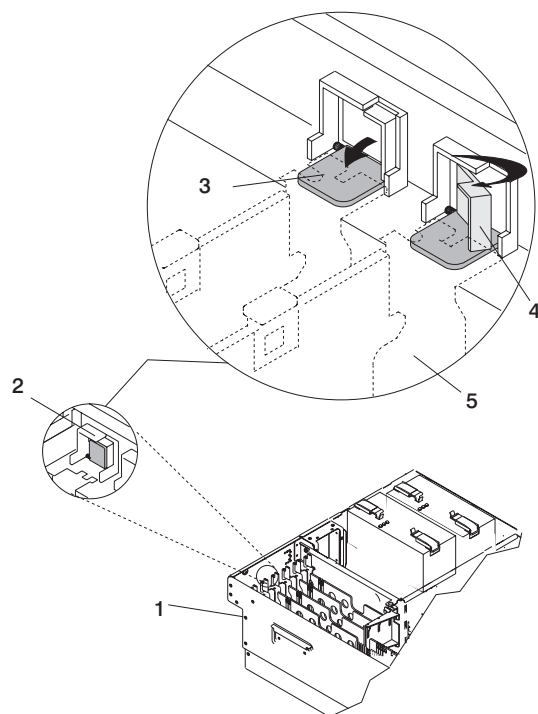
4. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
5. このシステムで使用できるアダプター用のスロット制約事項については *PCI アダプター インストール・ガイド* を参照してください。
6. 必要であれば、アダプターの拡張スロット・シールドを外してください。
7. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
8. 必要であれば、アダプターを帯電防止パッケージから取り出します。

重要: アダプターのコンポーネントや金縁のコネクターに触らないようにしてください。

9. アダプターをコンポーネント側を上にして平らな帯電防止された場所に置きます。
10. アダプター・メーカーの資料で説明されている通りにジャンパー接続やスイッチの設定を行います。
11. アダプターの先端を注意深く持ち、アダプターを拡張スロットと PCI ライザー・カードのコネクターに位置合わせします。
12. アダプターを しっかりと コネクターに押しこみます。

重要: システムにアダプターを取り付ける際、コネクターに確実にまた正しくはまるようにしてください。

13. タブを PCI アダプター・フェース・プレートまで下げます。アダプター保持クリップを、それが約 45 度の角度でタブにかかるまで、時計回りに回します。次の図を参照してください。



1 モデル 275

2 アダプター保持アセンブリー (アンロック位置になっている)

3 アダプター保持アセンブリー (保持シートは下げられ、保持クリップはアンロック位置に)

4 アダプター保持アセンブリー (保持シートは下げられ、保持クリップはロック位置に)

5 PCI アダプター・フェース・プレート (点線で示す)

14. 他にも取り付けるオプションがあれば、24 ページの『オプションと作業のリスト』を参照してください。取り付けるオプションが他にはなければ、次のステップに進みます。
15. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
16. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
17. アダプター・ケーブルを接続します。
18. システムに電源を接続します。
19. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムの電源を入れます。
20. 前のステップでベゼル・ドアを外していた場合は、ドアを元のように取り付けます。

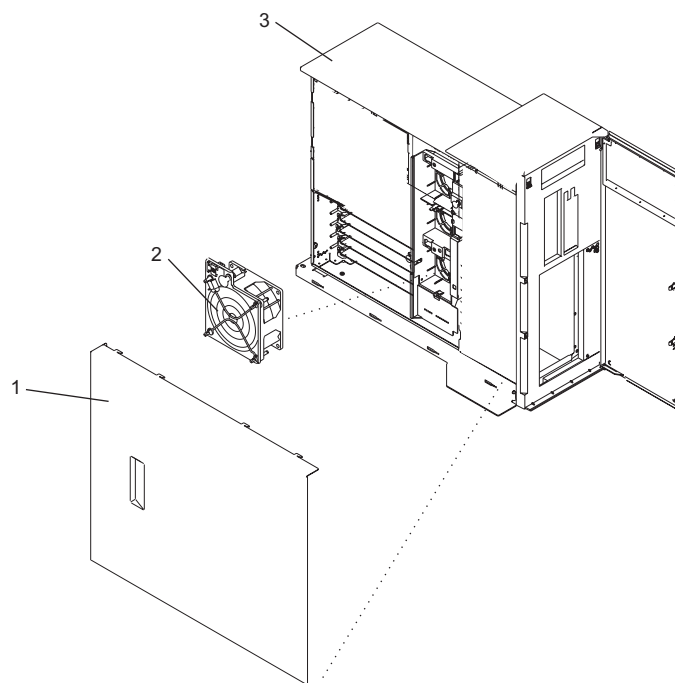
ホット・スワップ・システム・ファン

このシステムはホット・プラグと冗長化冷却機能をサポートしています。DASD とシステム電子装置は、システム冷却ファン 3 つで冷却されます。以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

ホット・スワップ・システム・ファンの取り外し

ホット・スワップ・ファンを取り替えるには、次のようにします。

1. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
2. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
3. 次の図を見て冷却ファンを見付けます。
4. 障害のあるファンのロック・ノブを引いてロックを外します。
5. 障害のあるファンのロック・ノブをもう一度引いてファンをコネクタから外します。
6. ファンのシート・メタルの縁を持ってロック・ノブのあるサイドに向かってファンを引きます。
7. 障害のあるファン・ユニットを上引き出します。



- 1 モデル 275
- 2 保守用カバー
- 3 冷却ファン (ファン #1)

ホット・スワップ・システム・ファンの取り替え

注:

1. Linux がインストールされたシステムでは、ホット・スワップ修理を確認するために、シャットダウンをして AIX 診断プログラムを実行するよう要求されます。

2. この注釈は、AIX オペレーティング・システムが稼働しているシステムに対してのみ適用されます。通常ではない故障でファン・アセンブリーを取り替える場合、修復処置が完了した後、**crontab** ファイルに電源か冷却についての警告メッセージがないかどうかをお客様にチェックするようお願いしてください。電源か冷却のエラーがあった場合、AIX は **crontab** ファイルに項目を追加し、お客様に問題の存在を知らせるために 12 時間ごとに警告メッセージを出すようにします。故障した部分を取り替えても、この **crontab** の項目はクリアされません。したがって、**crontab** ファイルを編集してこの項目を削除しない限り、修理が終わっていても、故障の警告を受け続けます。**crontab -l** コマンドで **crontab** ファイルを読み取り、項目があるかどうかを判別します。**crontab -e** コマンドでファイルの編集を行います。

AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。

ホット・スワップ冷却ファンを取り替えるには、次のようにします。

1. 取り替えるファンのロック・ノブを引いてロックを外します。
2. ファンを、コネクタに電源プラグが付いたファン・トレイ・アセンブリーのスロットに合わせます。
3. ファンをファン・トレイの中に入れます。
4. ファンを押して電源プラグを接続させます。

注: 電源プラグが接続されるとファンは作動を始めます。

5. ロック・ノブを押し下げてロックします。
6. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
7. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。

ファン・トレイ・アセンブリー

システム冷却ファン 3 つはファン・トレイに収められています。ファンを取り外したり取り替えている間、他のファンはそのままトレイにいても構いません。

ファン・トレイ・アセンブリーを取り外す

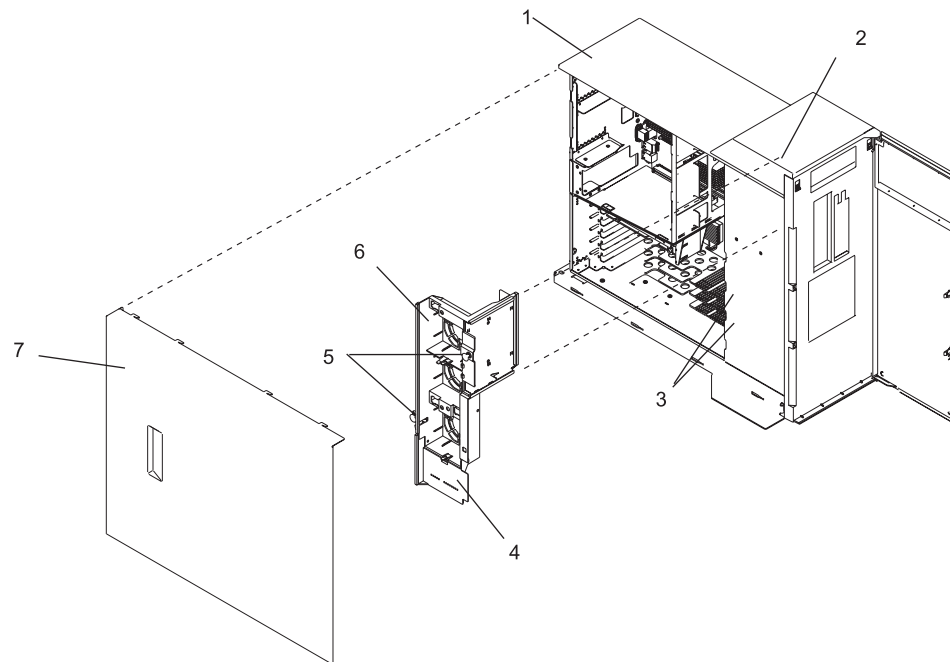
ファン・トレイ・アセンブリーを外すには、次のようにします。

1. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. システムから電源を切り離します。

注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

4. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
5. ご使用のシステムに SCSI メディア・デバイスが付いていなければ、次のステップに進みます。システムに SCSI メディア・デバイスが付いている場合は、メディア・ベイ・シャシーのラッチを押し、ベイ・シャシーをシステム・シャシーの中で前方に押しますが、システム・シャシーから外さないようにします。

6. 次の図を見てファン・トレイ・アセンブリーを見付けます。
7. ラッチを押し、プレートを回して LED ライト・パイプから LED ライト・パイプ・プレートを解放します。
8. ファン・トレイの両端にある青色のラッチ・ボタン 2 つを上引き、ロックを外します。
9. ディスク・ドライブ・バックプレーン背面にある青色のプラスチック・タブをホールドしながら、ファン・アセンブリー・プレートをまっすぐ上に引き、システム装置から出します。



- 1 モデル 275
- 2 ガイド・レール
- 3 ラッチ・タブ

- 4 LED ライト・パイプ・プレート
- 5 ラッチ・ボタン
- 6 ファン・トレイ・アセンブリー
- 7 保守用カバー

ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付ける

ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付けるには、次のようにします。

1. ラッチ・ボタンがアンロックされた位置になっていることを確認します。
2. ファン・トレイ前部にあるガイドをシャシーのガイド・レールに合わせます。
3. LED ライト・パイプ・カバー・プレートを LED ライト・パイプに向けておいて、ファン・トレイをシステムの中に入れ、下に押して収めます。
4. ラッチ・ボタンを押し下げてロックします。
5. LED ライト・パイプ・プレートのラッチを LED ライト・パイプにかけます。LED ライト・パイプが LED ライト・パイプ・プレートの対応する穴と合っていることを確認します。
6. ご使用のシステムに SCSI メディア・デバイスが付いていなければ、次のステップに進みます。システムに SCSI メディア・デバイスが付いている場合は、メディア・ベイ・シャシーを所定の位置にラッチがロックされるまで押し入れます。
7. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
8. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。

電源機構

⚠ 危険

電源機構のカバーを開けようとししないでください。電源機構は保守サービス可能ではなく、ユニットごと取り替えます。

D02

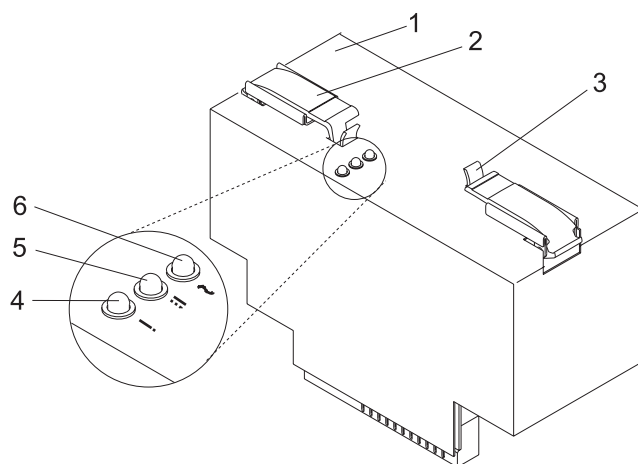
このシステムには電源機構を 2 つまで付けることができます。取り付けの際、電源を切る必要があるオプションの場合は、次の手順で行ってください。別の電源機構で取り替えるのであれば 41 ページの『電源機構の取り替え』に進みます。オプションのフィーチャーである 2 番目の電源機構を取り付ける場合は 42 ページの『電源機構を取り付ける』に進みます。

電源機構の取り外し

次の手順を実行する前に、vii ページの『安全上の注記』の安全上の注意を読み理解しておいてください。

システム・バックプレーンにオプションを取り付ける場合は、最初に電源機構を取り外さなければなりません。次のようにして行います。

1. ベゼル・ドアを開きます。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
4. 電源機構の背面から電源ケーブルを外します。
5. 少なくとも 10 秒たってから、次のステップを行います。
6. 電源機構の両方のハンドルの端を握り、ハンドルのばねで戻るようになっている部分をちょうどつがいのある底部にスライドさせます。こうすることで、リリース・ハンドル下側にあるロック・タブが解放されます。次の図を参照してください。



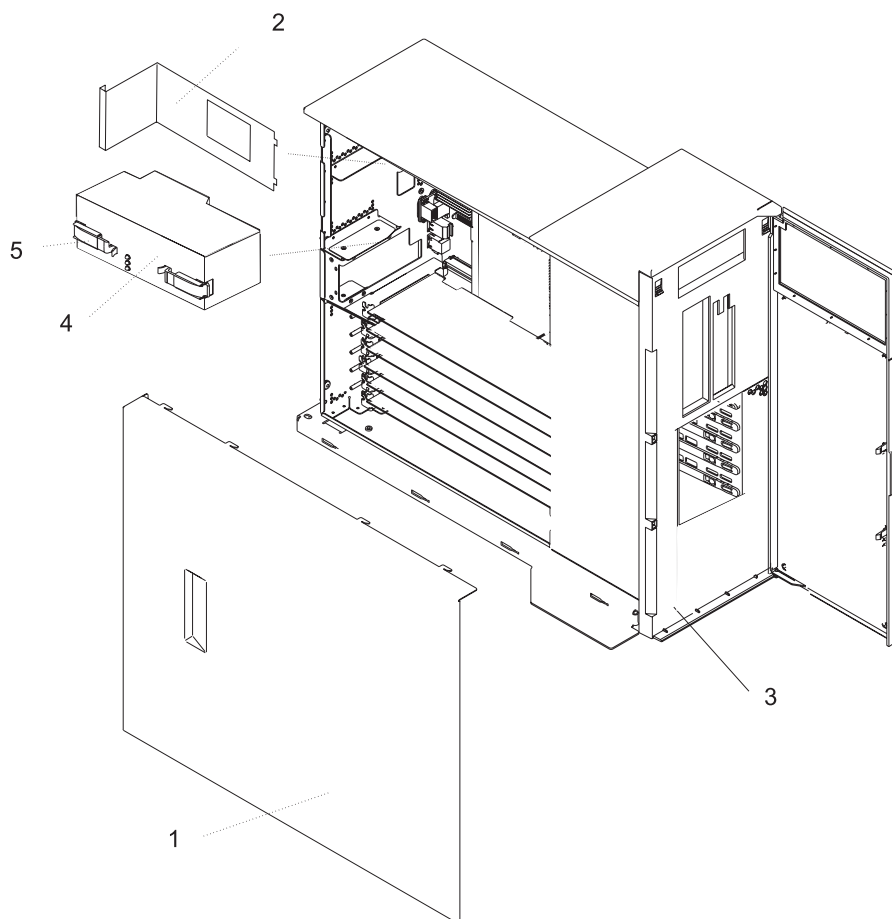
- 1 電源機構
- 2 電源機構ハンドル・ラッチ

- 4 障害 LED (こはく色)
- 5 DC 良好 LED (緑色)

3 ハンドルのばねで戻るようにしている部分

6 AC 良好 LED (緑色)

7. ハンドルが電源機構の上部に対して直角 (90 度) になるまでハンドルを引き上げます。ハンドルを電源機構上部に対して直角になるようにすれば、各ハンドルの底部のちょうつがい部分がカム役を果たして、電源機構をシステム・バックプレーンのコネクターから引き離します。



1 保守用カバー

2 電源機構フィラー・パネル

3 システム装置

4 電源機構 #1 (主)

5 電源機構リリース・ハンドル

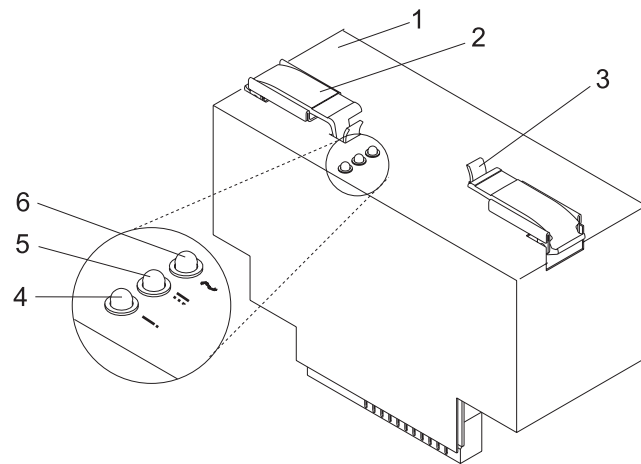
8. 電源機構がコネクターから離れたら、電源機構をシステム装置からまっすぐに引き出します。2 番目の電源機構の取り付けには、この手順を繰り返します。

電源機構の取り替え

注: 通常の操作中は、適切な冷却が行われるように、2 番目の電源機構ベイには電源機構かフィルター・パネルが入っていない必要があります。

電源機構を取り替えるには、次のようにします。

1. 新しい電源機構上部にあるリリース・ハンドルを握ります。ハンドルを上方に 90 度回します。こうすると、ハンドルがカムの働きをして電源機構がコネクタに納まるようになります。
2. 新しい電源機構を電源機構ベイに注意して挿入します。
3. 電源機構をコネクタに丁寧に押し込みながら、電源機構リリース・ハンドルを下ろします。ハンドルの裏側にあるばねラッチがかかると、電源機構は所定の場所に正しく収められ、ロックされます。



- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 電源機構 | 4 障害 LED (こはく色) |
| 2 電源機構ハンドル・ラッチ | 5 DC 良好 LED (緑色) |
| 3 ハンドルのばねで戻るようになっている部分 | 6 AC 良好 LED (緑色) |

4. 電源ケーブルを電源機構の背面に接続します。

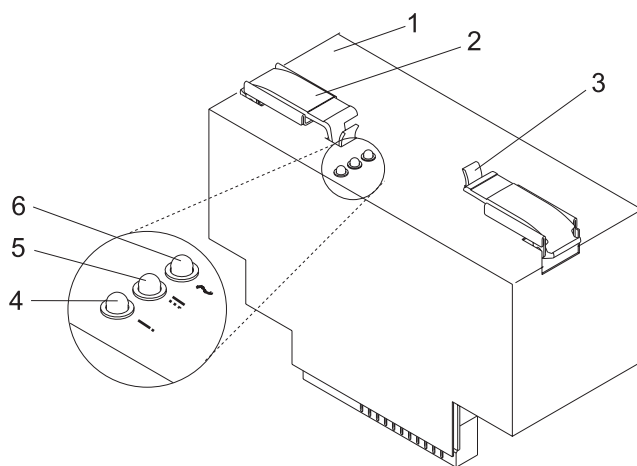
注: 電源ケーブルを給電部に接続するのは、指示されてからにしてください。

5. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
6. システムに電源を接続します。
7. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システム装置の電源を入れます。

電源機構を取り付ける

2 番目の電源機構は、電源を入れたまま取り付けることができます。電源機構を取り付けるには、次のようにします。

1. システムを保守位置にします。
2. 保守用カバーを外します。
3. 冗長化電源を取り付けている場合、ハンドルを持ってフィラーを内側に引いた後上に引き、フィラーをシステム装置から出してください。
4. 新しい電源機構上部にあるリリース・ハンドルを握ります。ハンドルを上方に 90 度回します。こうすると、ハンドルがカムの働きをして電源機構がコネクタに納まるようになります。
5. 新しい電源機構をオプションの電源機構ベイに注意して挿入します。
6. 電源機構をコネクタに丁寧に押し込みながら、電源機構リリース・ハンドルを下ろします。ハンドルの裏側にあるばねラッチがかかると、電源機構は所定の場所に正しく収められ、ロックされます。



- | | |
|------------------------|------------------|
| 1 電源機構 | 4 障害 LED (こはく色) |
| 2 電源機構ハンドル・ラッチ | 5 DC 良好 LED (緑色) |
| 3 ハンドルのばねで戻るようになっている部分 | 6 AC 良好 LED (緑色) |

7. 2 番目の電源ケーブルを新しい電源機構の背面に接続します。

注: 電源ケーブルを給電部に接続するのは、指示されてからにしてください。

8. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
9. システム装置に電源を接続します。
10. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システム装置の電源を入れます。

メディア・ドライブ (ディスク、CD-ROM、DVD-ROM、テープ、ディスクの各ドライブ)

重要: Linux と AIX オペレーティング・システムはどちらも、ホット・プラグ可能な PCI アダプターのホット・プラグ接続をサポートしていません。すべてのシステムで PCI アダプターを取り付ける前に、シャットダウンし電源を切らなければなりません。Linux オペレーティング・システムでは、PCI アダプターの取り替えは、ホット・プラグが可能なアダプターのための手順で行います。

注:

1. CD-ROM、DVD-ROM、またはディスク・ドライブを格納できるスリムライン・メディア・ベイ 2 つが使用可能です。このメディア・ベイ 2 つの位置については『スリムライン・メディア』の図を参照してください。ただし、CD-ROM ドライブはメディア・ベイ 1 に取り付けてください。
2. オプションのメディア・デバイス・ベイではホット・スワップのデバイスはサポートされていません。

この手順を行う前に次をお読みください。

- vii ページの『安全上の注記』
- ix ページの『レーザーの安全上の注意』

スリムライン・メディア

スリムライン・ディスク・ドライブは モデル 275 の右側のドライブ・スロットであるメディア・ベイ 1 に取り付けなければなりません。ディスク・ドライブを 2 台取り付けるとエラーになります。

注: スリムライン・メディア・デバイスはホット・スワップできません。

スリムライン・メディア・ドライブを取り外す

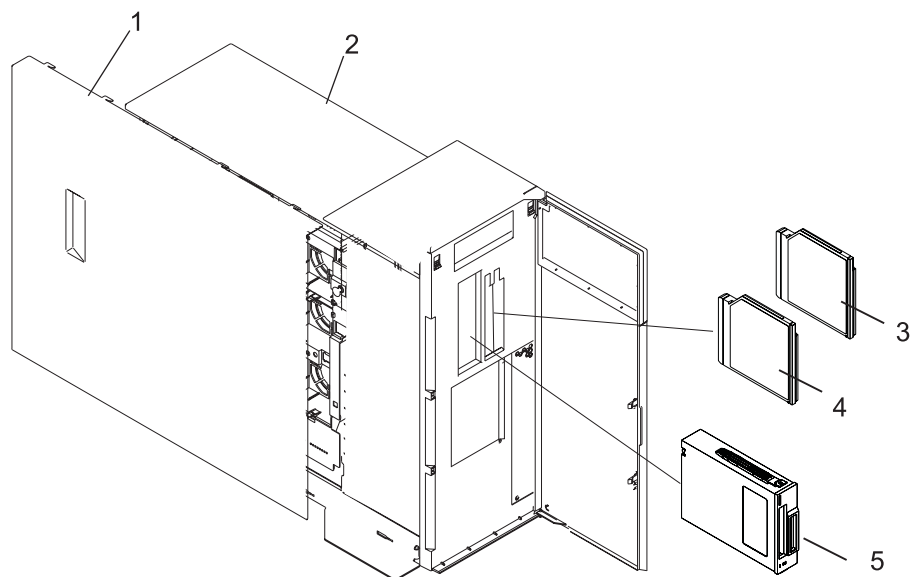
スリムライン・メディア・ドライブを取り外すには、次のようにします。

1. 青色のプラスチック保持タブを押してドライブから外します。
2. 青色のプラスチック保持タブを押しながらドライブを掴みシステムから引き出します。

スリムライン・メディア・ドライブを取り替える

スリムライン・メディア・ドライブを取り替えるには、次のようにします。

1. 青色のプラスチック保持タブを押してデバイス・スロットから外します。
2. 青色のプラスチック保持タブを押しながらドライブを掴んでシステムの中に押し入れます。



1 保守用カバー

2 モデル 275

3 スリムライン・ディスケット (メディア・ベイ 2)

4 スリムライン CD-ROM (メディア・ベイ 1)

5 SCSI メディア・デバイス (例：テープ・ドライブ、DVD-RAM ドライブ)

SCSI メディア・デバイス

SCSI メディア・デバイス・ベイは SCSI デバイス専用のフルハイト・ベイです。

SCSI メディア・デバイスの取り外し

SCSI メディア・デバイスを外すには、次のようにします。

1. ベゼル・ドアを開きます。
2. 46 ページの『メディア・ベイ・シャシー』の説明に従い、メディア・ベイ・シャシーを取り外します。
3. SCSI ケーブルと電源ケーブルのプラグを、SCSI メディア・デバイス後部およびメディア・ベイ・シャシー後部のバックプレーンから抜きます。
4. メディア・ドライブをメディア・ベイ・シャシーから切り離します。
5. メディア・ドライブを安全な場所に置いておきます。

SCSI メディア・デバイスの取り付けまたは取り替え

メディア・デバイスを取り替えるには、次のようにします。

1. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
2. メディア・ドライブをメディア・ベイ・シャシーに取り付けます。
3. SCSI ケーブルと電源ケーブルのプラグを、SCSI メディア・デバイス後部およびメディア・ベイ・シャシー後部のバックプレーンに接続します。
4. 46 ページの『メディア・ベイ・シャシー』の説明に従って、メディア・ベイ・シャシーを元のように取り付けます。

5. 28 ページの『前面ベゼルを元のように取り付ける』の説明に従い、ベゼルを元のように取り付けます。

SCSI メディア・デバイスの電源ケーブルと SCSI ケーブルを元のように取り付ける

SCSI メディア・デバイスの電源ケーブルまたは SCSI ケーブルを元のように取り付けるには、44 ページの『SCSI メディア・デバイスの取り外し』および 44 ページの『SCSI メディア・デバイスの取り付けまたは取り替え』を参照してください。

メディア・ベイ・シャシー

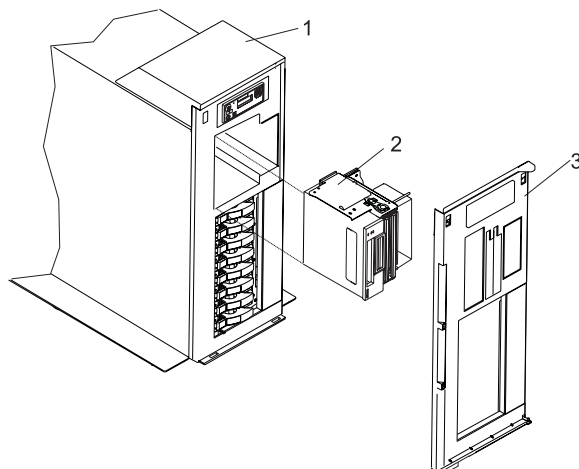
以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

メディア・ベイ・シャシーを取り外す

メディア・ベイ・シャシーを取り外すには、次のようにします。

1. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
2. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
3. 28 ページの『ベゼル』の説明に従って、前面ベゼルを外します。
4. メディア・ベイ・シャシーのラッチを押し、ベイ・シャシーをシステム・シャシーから引き出します。

注: 保守しているのが モデル 275 であれば、オペレーター・パネルはメディア・ベイ・シャシーを外してもそこに残ります。



- 1 モデル 275
- 2 メディア・ベイ・シャシー
- 3 前面ベゼル

メディア・ベイ・シャシーを元のように取り付ける

メディア・ベイ・シャシーを元のように取り付けるには、次のようにします。

1. メディア・ベイ・シャシーとシャシーの開口部を位置合わせし、シャシーをラッチがロックされるまで押し込みます。
2. 28 ページの『ベゼル』の説明に従って、前面ベゼルを元のように取り付けます。
3. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
4. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムを始動します。

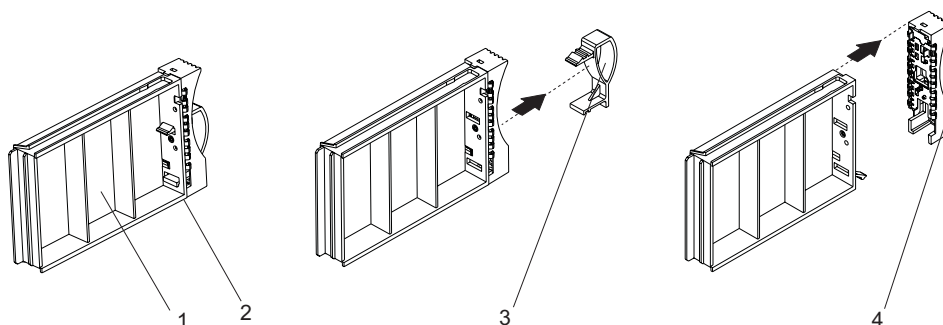
ディスク・ドライブ・ベゼルとフィラー

モデル 275 のディスク・ドライブ・スロットには、ディスク・ドライブまたは適切なフィラーが入っていないかもしれません。

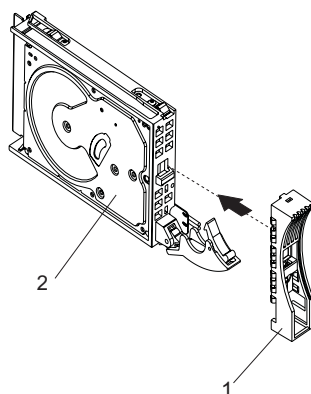
ディスク・ドライブ・ベゼルをディスク・ドライブに取り付ける

ディスク・ドライブ・ベゼルをディスク・ドライブに取り付けるには、次のようにします。

1. 使用するスロットからディスク・ドライブのフィラー・パネルを取り外します。
2. フィラー・パネル前部からディスク・ドライブ・ベゼル・プラグを取り外します。
3. フィラー・パネル前端からディスク・ドライブ・ベゼルを取り外します。
4. ディスク・ドライブ・ベゼルをディスク・ドライブ前部に取り付けます。
5. ディスク・ドライブの追加については 49 ページの『ホット・プラグ・ディスク・ドライブ』 に記述されている手順に従ってください。



- 1 ベゼルの付いたフィラー・パネル
- 2 ディスク・ドライブ・プラグ
- 3 ディスク・ドライブ・ベゼル



- 1 ディスク・ドライブ・ベゼル
- 2 ディスク・ドライブ

ディスク・ドライブまたはフィラーからディスク・ドライブ・ベゼルを取り外す

ディスク・ドライブ・ベゼルをディスク・ドライブまたはフィラーから取り外すには、次のようにします。

1. フィラー・パネルをディスク・ドライブ・スロットから取り外すか、または 49 ページの『ホット・プラグ・ディスク・ドライブ』に記載のディスク・ドライブ取り外しの手順に従います。
2. フィラーまたはディスク・ドライブ前部からディスク・ドライブ・ベゼルを取り外します。
3. ディスク・ドライブ・ベゼルをフィラー・パネルまたは取り替え用ディスク・ドライブの前端に取り付けます。
4. フィラー・パネルを空いているディスク・ドライブ・スロットに入れるか、または 49 ページの『ホット・プラグ・ディスク・ドライブ』に記載のディスク・ドライブ追加の手順に従います。

ホット・プラグ・ディスク・ドライブ

以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

重要: Linux オペレーティング・システムは、このホット・プラグ可能手順をサポートしていません。Linux がインストールされたシステムでは、ディスク・ドライブまたはPCI アダプターを取り付ける前にシャットダウンし電源を切らなければなりません。

注: ホット・プラグ・ディスク・ドライブを取り外す際、AIX システムの電源を切る必要はありません。この手順を行う前に、取り外そうとしているドライブのデータがバックアップされていること、およびそのドライブが構成から削除されていることを確認してください。システム構成から除去する前にホット・プラグ・ディスク・ドライブを取り外すと、リカバリー不能なデータ破壊の原因となります。

ディスク・ドライブを構成解除 (取り外す) または構成する

システムに電源を入れたままドライブを取り外し、または取り付けを行う場合は、この手順を行います。

ディスク・ドライブを構成解除する (取り外す)

ディスク・ドライブをボリューム・グループから取り外す前に、次のことを行います。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. ディスクをボリューム・グループから取り外す前に、すべてのデータのバックアップを取り、またそのデータを元通りにします。この作業には「AIX Logical Volume Manager」を使用します。
AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。
3. コマンド行で `smitty` と入力します。
4. **System Storage Manager (Physical and Logical Storage)** (システム・ストレージ・マネージャー (物理および論理ストレージ)) を選択して、Enter を押します。
5. **Logical Volume Manager** (論理ボリューム・マネージャー) を選択して、Enter を押します。
6. **Volume Groups** (ボリューム・グループ) を選択して、Enter を押します。
7. **Set Characteristics of a Volume Group** (ボリューム・グループの特性の設定) を選択して、Enter を押します。
8. **Remove a Physical Volume from a Volume Group** (ボリューム・グループからの物理ボリュームの削除) を選択します。
9. F4 を押して、選択可能なボリューム・グループのリストを表示し、そこからボリューム・グループ名を選択して Enter を押します。
10. F4 を押して物理ボリュームを選択してから、画面上の指示に従って物理ボリュームを選択します。その後で、Enter を押します。
11. F3 キーを何度か押して、最初の `smitty` メニューに戻ります。そこで **System Storage Management (Physical and Logical Storage)** を選択します。
12. **Removable Disk Management** (取り外し可能ディスクの管理) を選択します。
13. **Remove a Disk** (ディスクの取り外し) を選択します。
14. 画面上のリストから希望のディスクを選択して、Enter を押します。
15. 画面上の指示に従って、ドライブを取り外します。

16. 「Are you sure?」が表示されたら Enter を押します。選択したドライブの電源 LED は、点灯したままです。
17. ディスク・ドライブのレバーを完全に開くまで手前に引いて、ドライブを取り外します。ディスク・ドライブをスロットから取り外します。ディスク・ドライブが外されると、スロット上部の LED が消灯します。
18. F10 を押して smitty を終了します。

ディスク・ドライブを構成する (取り替える)

ディスク・ドライブを構成するまたは取り替えるには、次のようにします。

1. ディスク・ドライブを保護用パッケージから取り出し、ドライブ・ラッチ・ハンドルを開きます。
2. ディスク・ドライブをドライブ・スロットに取り付けます。ディスク・ドライブをドライブ・スロット・レールに位置合わせし、ディスク・ドライブをドライブ・ベイ後部のバックプレーンに当たるまでスロットにスライドさせます。ラッチ・ハンドルのラッチが掛かるまで、ドライブを押し入れます。ディスク・ドライブのレバーを引き上げて後方に押すと、ディスク・ドライブはロックされます。スロットの LED が点灯します。
3. root ユーザーとしてログインします。
4. コマンド行で smitty と入力します。
5. **Devices** (デバイス) を選択します。
6. **Install/Configure Devices Added After IPL** (IPL 後に追加されたデバイスの取り付け/構成) を選択して、Enter を押します。構成が正しく完了すると、画面上部の「Command (コマンド)」フィールドの隣りに OK メッセージが表示されます。
7. F3 キーを何度か押して、最初の smitty メニューに戻ります。そこで **System Storage Management (Physical and Logical Storage)** を選択します。
8. **Logical Volume Manager** (論理ボリューム・マネージャー) を選択して、Enter を押します。
9. **Volume Groups** (ボリューム・グループ) を選択して、Enter を押します。
10. **Set Characteristics of a Volume Group** (ボリューム・グループの特性の設定) を選択して、Enter を押します。
11. **Add a Physical Volume to a Volume Group** (ボリューム・グループへの物理ボリュームの追加) を選択します。
12. システムに追加するドライブのために、フィールドに入力します。選択リストを表示するには F4 を押します。
13. *AIX System Management Guide: Operating System and Devices* を参照して、ドライブ構成を完了させます。
AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。
14. F10 を押して smitty を終了します。

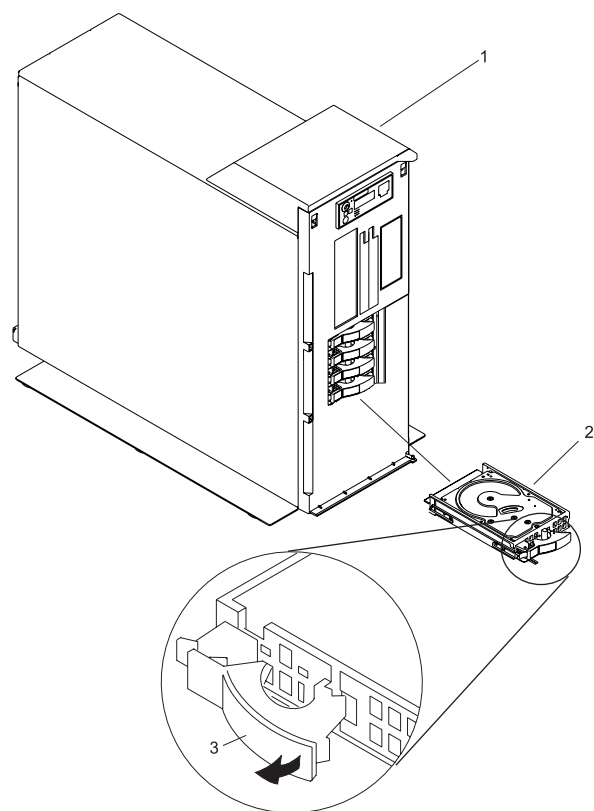
ホット・プラグ・ディスク・ドライブの取り外し

重要: 次の手順を行う前に、取り外そうとしているドライブのデータがバックアップされていること、およびそのドライブが構成から削除されていることを確認してください。システム構成から除去する前にホット・プラグ・ドライブを取り外すと、リカバリー不能なデータ破壊の原因となります。49 ページの『ディスク・ドライブを構成解除する (取り外す)』を参照してください。

重要: Linux オペレーティング・システムは、このホット・プラグ可能手順をサポートしていません。Linux がインストールされたシステムでは、ディスク・ドライブまたは PCI アダプターを取り付ける前にシャットダウンし電源を切らなければなりません。

ホット・プラグ・ディスク・ドライブを外すには、次のようにします。

1. ディスク・ドライブを取り外す前に、必ずすべてのデータを保管しておきます。
2. システムから取り外すディスク・ドライブを構成解除します。49 ページの『ディスク・ドライブを構成解除する (取り外す)』を参照してください。
3. 前面ベゼル・ドアを開きます。
4. 取り外すホット・プラグ・ディスク・ドライブを見付けます。障害のあるディスク・ドライブを取り外す場合には、各ディスク・ドライブの前面にあるこはく色の LED が点灯しているので、障害のあるドライブを見分けることができます。
5. root ユーザーとしてログインします。
6. コマンド行で `smitty` と入力します。
7. **System Storage Management (Physical and Logical Storage)** (システム・ストレージ管理 (物理および論理ストレージ)) を選択します。
8. **Removable Disk Management** (取り外し可能ディスクの管理) を選択します。
9. **Remove a Disk** (ディスクの取り外し) を選択します。
10. 画面上のリストから希望のディスクを選択して、Enter を押します。
11. ドライブのハンドルを開いた位置 (ドライブに対して直角) にし、ホット・プラグ・ディスク・ドライブをベイから引き出し、ディスク・ドライブを取り外します。ディスク・ドライブが外されると、ディスク・ドライブの点灯している LED が消灯します。



- 1 モデル 275
- 2 ディスク・ドライブ
- 3 ディスク・ドライブ・リリース・ハンドル

12. F10 を押して smitty を終了します。

ホット・プラグ・ディスク・ドライブを取り付ける

重要: この手順を行う前に、取り外そうとしているドライブのデータがバックアップされていること、およびそのドライブが構成から削除されていることを確認してください。システム構成から除去する前にホット・プラグ・ドライブを取り外すと、リカバリー不能なデータ破壊の原因となります。49 ページの『ディスク・ドライブを構成解除する (取り外す)』を参照してください。

システムが HACMP クラスタリングを実行するようにセットアップされている場合、**Install/Configure Devices Added After IPL** を使用 しないでください。取り替えたディスクを構成する適切な方法については、システム管理者またはソフトウェア・サポートに相談してください。

重要: Linux オペレーティング・システムは、このホット・プラグ可能手順をサポートしていません。また、Linux は、ホット・プラグ可能な PCI アダプターをホット接続することもサポートしていません。Linux がインストールされたシステムでは、Linux パーティションに割り当てられた PCI アダプターを取り替える前にシャットダウンし電源を切らなければなりません。Linux オペレーティング・システムでは、PCI アダプターの取り替えは、ホット・プラグが可能でないアダプターのための手順で行います。

ホット・プラグ・ディスク・ドライブを取り付けるには、次のようにします。

1. ディスク・ドライブ前部のハンドルが開いている (ドライブに対して直角になっている) ことを確認します。
2. ドライブ・アセンブリーがベイのガイド・レールにはまるように位置合わせします。
3. ハンドルがロック機構にはまるまで、ドライブ・アセンブリーをベイの中に押し入れます。
4. ディスク・ドライブのハンドルを押しロックさせます。ディスク・ドライブの LED が点灯します。
5. root ユーザーとしてログインします。
6. コマンド行で `smitty` と入力します。
7. **Devices** (デバイス) を選択します。
8. **Install/Configure Devices Added After IPL** (IPL 後に追加されたデバイスの取り付け/構成) を選択して、Enter を押します。構成が正しく完了すると、画面上部の「**Command** (コマンド)」フィールドの隣りに OK メッセージが表示されます。
9. F10 を押して `smitty` を終了します。
10. ベゼル・ドアを閉じます。

ディスク・ドライブ・バックプレーン

システムを平らで安定した平面に側面を下にして置くことをお勧めします。損傷を防ぐため、システムの前部脚を立てないでください。

以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

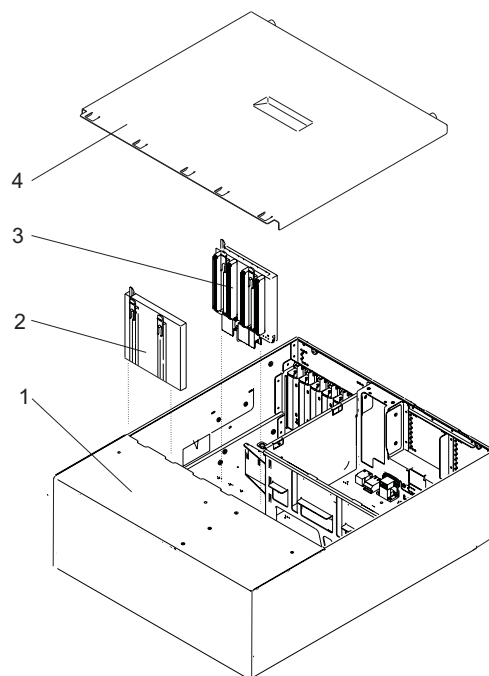
ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り外す

ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り外すには、次のようにします。

1. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. システムから電源を切り離します。

注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

4. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
5. 36 ページの『ファン・トレイ・アセンブリーを取り外す』の説明に従って、ファン・トレイ・アセンブリーを取り外します。
6. カード、ボード、DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
7. ディスク・ドライブのハンドルをオープン位置 (ドライブに対して直角) にして、ホット・スワップ・ディスク・ドライブをベイから完全に出さない程度に引き出します。ディスク・ドライブが外されると、ディスク・ドライブ上の点灯していた LED が消灯します。ディスク・ドライブ・フィラーをベイの中で前方に引っ張ります。
8. ディスク・ドライブ・バックプレーンの上端にある青色のラッチ・タブを押さえ、バックプレーンを引き上げてコネクタから離します。シャーシ壁面にあるシャーシ・フックからディスク・ドライブ・バックプレーンを離し、ディスク・ドライブ・バックプレーンをシステムから引き出します。



- 1 保守位置にあるシステム装置
2 ディスク・ドライブのフィラー・パネル

- 3 ディスク・ドライブ・バックプレーン
4 保守用カバー

ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り付けまたは取り替える

ディスク・ドライブ・バックプレーンを取り替えるには、次のようにします。

1. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
2. 必要であれば、ディスク・ドライブ・バックプレーンを帯電防止パッケージから取り出します。
3. 必要であれば、ディスク・ドライブ・バックプレーン・フィラーをスロットから取り出します。
4. ディスク・ドライブ・バックプレーンを上端にあるラッチ・タブ付近で注意深く持ちます。
5. ディスク・ドライブ・バックプレーンをシステム・シャシーの中に、シャシー・フックに向けて挿入し、フックとディスク・ドライブ・バックプレーンにあるガイドとを合わせます。
6. ディスク・ドライブ・バックプレーンをシャシー・フックに掛けます。ディスク・ドライブ・バックプレーンをコネクターに強く押し付けてラッチ・タブをロックします。
7. ディスク・ドライブ背面を押して収めハンドルを閉じます。ディスク・ドライブ・フィラーを元の位置に収めます。
8. 36 ページの『ファン・トレイ・アセンブリー』の説明に従って、ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付けます。
9. システムに電源を再接続します。
10. 29 ページの『カバー』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
11. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
12. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムの電源を入れます。

メモリー DIMM

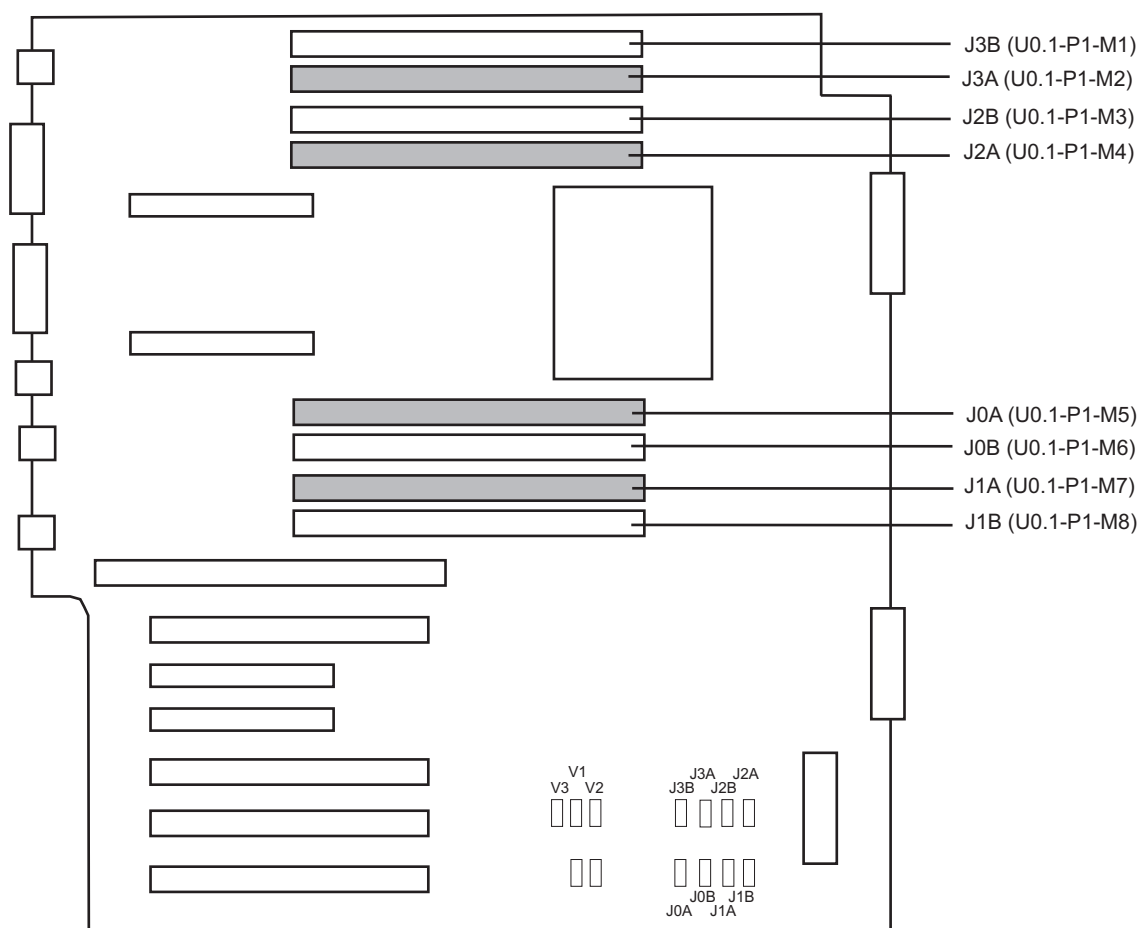
以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

注: メモリー DIMM は、必ずクワッド (4 枚 1 組) で正しいスロットに取り付けなければなりません。M2、M4、M5、M7 が 1 つのクワッドです。M1、M3、M6、M8 がもう 1 つのクワッドです。どちらのクワッドを先に取り付けても構いません。

メモリー DIMM の取り付けと取り替え

メモリー DIMM を取り付ける前に、別の 1 つを外さなければならない場合は、58 ページの『メモリー DIMM の取り外し』を参照してください。メモリー DIMM を取り付けるには、次のようにします。

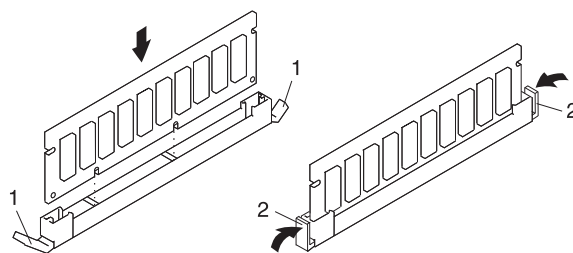
1. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
2. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
3. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
4. 36 ページの『ファン・トレイ・アセンブリーを取り外す』の説明に従って、ファン・トレイ・アセンブリーを取り外します。
5. 次の図は、メモリー DIMM スロットが付けられたシステム・バックプレーンを示します。メモリー DIMM を取り付けるために取り付けまたは取り替える DIMM スロットがどれかを判別します。



番号	説明	ロケーション・コード
M1	メモリー・スロット 1 (J3B)	U0.1-P1-M1
M2	メモリー・スロット 2 (J3A)	U0.1-P1-M2
M3	メモリー・スロット 3 (J2B)	U0.1-P1-M3
M4	メモリー・スロット 4 (J2A)	U0.1-P1-M4
M5	メモリー・スロット 5 (J0A)	U0.1-P1-M5
M6	メモリー・スロット 6 (J0B)	U0.1-P1-M6
M7	メモリー・スロット 7 (J1A)	U0.1-P1-M7
M8	メモリー・スロット 8 (J1B)	U0.1-P1-M8

- DIMM スロットを触るために必要であれば、電源機構やサービス・プロセッサなどのコンポーネントを取り外します。39 ページの『電源機構の取り外し』 および 59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリーを取り外す』 を参照してください。
- 必要であれば、58 ページの『メモリー DIMM の取り外し』 の説明に従い、現在のメモリー DIMM を該当の位置から取り外します。
- カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、シャーシの金属面に片手を触れて静電気の放電をしておきます。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』 を参照してください。
- 新しいメモリー DIMM を帯電防止パッケージから取り出します。
- 新しいメモリー DIMM を取り付ける前に、コネクタ・ロック・タブが押し開けられてアンロック位置にあることを確認します。次の図を参照してください。
- メモリー DIMM の両端を注意して持ち、コネクタに位置合わせします。
- メモリー・カードをコネクタにしっかりと差し込みます。
- メモリー DIMM をコネクタの両端にあるロック・タブで固定します。図を参照してください。

重要: メモリー DIMM およびメモリーDIMM コネクタに損傷を与えるのを防ぐため、保持ラッチの開閉は同時に行います。



- 1 ロック・タブ (アンロック位置になっている)
2 ロック・タブ (ロック位置になっている)

- DIMM スロットを触るために取り外していた場合、電源機構やサービス・プロセッサなどのコンポーネントを元のように取り付けます。41 ページの『電源機構の取り替え』 および 59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリーを元のように取り付ける』 を参照してください。
- 38 ページの『ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付ける』 の説明に従って、ファン・トレイ・アセンブリーを元のように取り付けます。
- 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』 の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
- 電源ケーブルとシグナル・ケーブルを再接続します。

18. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
19. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムの電源を入れます。

メモリー DIMM の取り外し

メモリー DIMM を外すには、次のようにします。

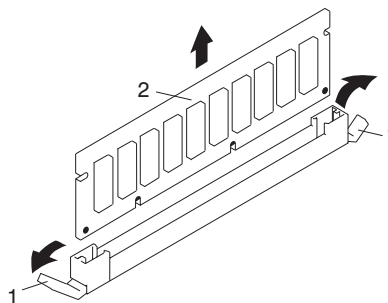
1. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
2. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
3. システムから電源を切り離します。

注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

4. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
5. 36 ページの『ファン・トレイ・アセンブリーを取り外す』の説明に従って、ファン・トレイ・アセンブリーを取り外します。
6. システム・バックプレーンにある DIMM 位置に届くために必要であれば、電源機構フィラーと電源機構を取り外します。39 ページの『電源機構の取り外し』の説明に従います。
7. システム・バックプレーンにある DIMM に届くために必要であれば、サービス・プロセッサ・アセンブリーを 59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリー』の説明に従い取り外します。
8. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、シャシーの金属面に片手を触れて静電気の放電をしておきます。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
9. どのメモリー DIMM を取り外すかを判別します。56 ページの『メモリー DIMM の取り付けと取り替え』の図を参照してください。
10. タブを外側に押し次に下に押して、メモリー DIMM を外します。タブがカムの働きをして、メモリー DIMM をコネクタから押し出します。

重要: メモリー DIMM およびメモリー DIMM コネクタに損傷を与えるのを防ぐため、保持ラッチの開閉は同時に行います。

11. メモリー DIMM をコネクタから、図に示すように取り出します。



- 1 コネクタ・タブ (アンロック位置になっている)
- 2 メモリー DIMM

サービス・プロセッサ・アセンブリー

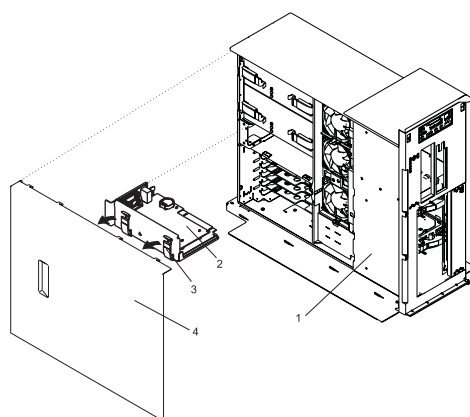
以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

サービス・プロセッサ・アセンブリーを取り外す

1. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
2. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、保守位置にします。
3. オペレーター・パネルに表示されている情報を書き留めておきます。
4. システムから電源を切り離します。

注: このシステムには 2 次電源機構が装備されていることがあります。この手順を継続する前に、システムの電源がすべて完全に切られていることを確認してください。

5. サービス・プロセッサ・アセンブリーに接続されたケーブルすべてにラベルを付け、切り離します。
6. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
7. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。
8. 次の図を見てサービス・プロセッサ・アセンブリーを確認します。
9. サービス・プロセッサ・アセンブリー上部にあるカム・ラッチ 2 つをアンロックします。
10. カム・ラッチを押し外側に回してサービス・プロセッサ・アセンブリーを解放します。
11. アセンブリーをシャシーから引き出します。
12. サービス・プロセッサ・アセンブリーを安全な場所に置いておきます。



- 1 モデル 275
- 2 サービス・プロセッサ・アセンブリー

- 3 カム・ラッチ
- 4 保守用カバー

サービス・プロセッサ・アセンブリーを元のように取り付ける

1. カード、ボード、メモリー DIMM を取り扱う前に、静電気放電ストラップを使用し、静電気の放電ができるだけ少なくなるようににしてください。24 ページの『静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い』を参照してください。

2. サービス・プロセッサ・アセンブリー上部にあるカム・ラッチ 2 つをアンロックし、オープン位置くるよう回します。
3. サービス・プロセッサ・アセンブリーをシステム・シャシーのスロットに合わせます。
4. サービス・プロセッサ・アセンブリーのカム・ラッチのあたりを持って、所定の位置におろします。

注: サービス・プロセッサが所定の位置に来るとき、サービス・プロセッサの先頭フランジにある位置合わせピン 2 本が、後部バルクヘッドにある対応する穴に合っていることを確認します。

5. サービス・プロセッサ・アセンブリー上部を強く押して所定の位置にロックします。
6. カム・ラッチを下に回してロックします。
7. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
8. システムを 26 ページの『モデル 275 を保守位置と操作位置にする』の説明に従い、操作位置に戻します。
9. ケーブルをサービス・プロセッサ・アセンブリーに再接続します。
10. システムの電源ケーブルすべてを再接続します。
11. 25 ページの『システムを始動する』の説明に従い、システムの電源を入れます。

バッテリーを取り替える

以下の手順を行う前に vii ページの『安全上の注記』をお読みください。

⚠ 注意

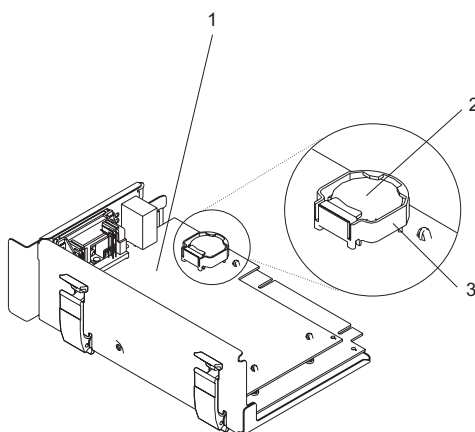
リチウム・バッテリーは火災、爆発、または激しい燃焼を起こす可能性があります。再充電、分解、100°C 以上の温度への過熱、セルへの直接の溶接、またはセルの中身を水につけることは避けてください。お子様の手の届かないところに保管してください。取り替える際は、必ずシステムで指定されているパーツ番号のもので取り替えてください。別のバッテリーを使用すると、火災や爆発の危険性があります。

バッテリー・コネクターには 2 つの極があります。極を反対にしないでください。

バッテリーを廃棄する際は、地域の規則に従って廃棄してください。

システムのバッテリーを取り替えるには、次のようにします。

1. ベゼル・ドアを開きます。
2. 25 ページの『システムを停止させる』の説明に従いシステムをシャットダウンします。
3. 29 ページの『保守用カバーを外す』の説明に従って、保守用カバーを取り外します。
4. 59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリーを取り外す』の説明に従って、サービス・プロセッサ・アセンブリーを取り外します。
5. サービス・プロセッサ・アセンブリーでバッテリーを見付けます。
6. つめで、バッテリーをプラスチック製の取り付け部からつまみ出します。バッテリーの底がプラスチック取り付け部の先端から離れたら、バッテリーをシステム・プレーナーから取り出します。



- 1 サービス・プロセッサ・アセンブリー
- 2 バッテリー
- 3 プラスチックのバッテリー取り付け部

7. パーツ・ナンバー 00P3903 のバッテリーか、またはそれと同等品と取り替えます。
8. 新しいバッテリーを入れる際、バッテリーの極性を間違えないようにしてください。このシステムでは、バッテリーの陽極 (+) 側を上にしてプラスチック取り付け具に取り付けます。
9. 新しいバッテリーを静かにプラスチック取り付け具に挿入します。

10. 59 ページの『サービス・プロセッサ・アセンブリを元のように取り付ける』の説明に従い、サービス・プロセッサ・アセンブリを元のようにシステム装置に取り付けます。
11. 29 ページの『保守用カバーを元のように取り付ける』の説明に従って、保守用カバーを元のように取り付けます。
12. システムの電源を入れます。
13. AIX が稼働している場合、root ユーザーでログインしている間に **bootlist** コマンドを実行させる必要があります。こうすることでカスタマイズ・ブート・リストが再ビルドされます。IP (インターネット・プロトコル) パラメーターの再入力も必要になることがあります。

AIX オペレーティング・システムの資料は、IBM @server pSeries 情報センターの http://publib16.boulder.ibm.com/pseries/en_US/infocenter/base で利用可能です。そこで **AIX documentation** を選択します。AIX 資料 CD には、システム管理やエンド・ユーザー資料を含む、オペレーティング・システム資料の基本セットが入っています。

付録 A. 電波障害自主規制への適合性

以下の記述は当製品に適用されます。当製品と併用されるその他の製品に関する同様の記述は、それらの製品に関連したマニュアルに記載されています。

情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) 表示

電波障害自主規制 届出装置の記述

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

付録 B. 環境に関する注意

製品のリサイクルと廃棄

この装置には、使用終了時に特別な処理および廃棄を必要とする、鉛や銅/ベリリウム合金が使われている回路ボード、ケーブル、電磁適合性ガasketやコネクタなどの材料が含まれています。この装置を廃棄する場合はこれらの素材を外して、適切な規定に従ってリサイクルまたは廃棄しなければなりません。IBM では、いくつかの国で製品回収プログラムを提供しています。詳しくは次の Web サイトを参照してください。 <http://www.ibm.com/ibm/environment/products/prp.phtml>

この製品には、密封された鉛酸、ニッケル・カドミウム、ニッケル水素、リチウム、およびリチウム・イオン・バッテリーが含まれている場合があります。特定のバッテリー情報については、お手元のユーザー・マニュアルまたはサービス・マニュアルを参照してください。バッテリーは、正しくリサイクルするか廃棄する必要があります。お客様の地域にはリサイクル施設がない場合もあります。バッテリーの廃棄については、お客様の地域の廃棄物処理施設にお問い合わせください。

設計における環境の考慮

このシステムの設計において、環境のために実施された努力は、IBM Corporation がこの製品および処理の品質を向上させることを確約することを示すものです。これらには、製造工程における Class 1 オゾン層破壊化学薬品の使用の中止、および製造過程で発生する廃棄物の削減があります。詳しくは、IBM 営業担当員にお問い合わせください。

放出騒音

ワークステーションの等価連続 A 加重音圧レベル (1m 離れた場所での放出音圧レベル) は 70 dB(A) 以下です。

放出騒音の公称値

製品構成	公称 A 加重音響出力レベル L_{WA} (B)	
	操作時	アイドリング時
275	6.0	5.9

注:

- L_{WA} は、ランダムにサンプルした機械の公称 (上限) 音響出力レベル (1B = 10dB)
- L_{pAm} は、ランダムにサンプルした機械の 1m 離れた場所での A 加重音圧レベルの平均値
- すべての測定は ISO 7779 に準拠して行われ、ISO 9296 に準拠して公表されています。

付録 C. 特記事項

本書の情報は、米国で提供される製品およびサービスのために開発されたものです。

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、製造元の担当者にお尋ねください。本書で、製造元の製品、プログラム、またはサービスに言及している部分があっても、このことは当核製品、プログラム、またはサービスだけが使用可能であることを意味するものではありません。これらの製品、プログラム、またはサービスに代えて、製造元の有効な知的所有権またはその他の法的に保護された権利を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、これらの製品、プログラム、またはサービスに関する動作の評価および検査はお客様の責任で行っていただきます。

製造元は、本書で解説されている主題について特許権 (特許出願を含む)を所有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、製造元に書面にてご照会ください。

〒106-0032

東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation

Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。本書は特定物として現存するままの状態を提供され、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。製造元は、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、予告なしに改良または変更を行うことがあります。

製造元以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。製造元は、それらの製品のテストを行っておりません。したがって、製造元以外の他社の製品に関する実行性、互換性、またはその他の損害賠償請求については確証できません。製造元以外の他社の製品の機能に関する質問は、それらの製品の提供者に問い合わせてください。

付録 D. システムの記録

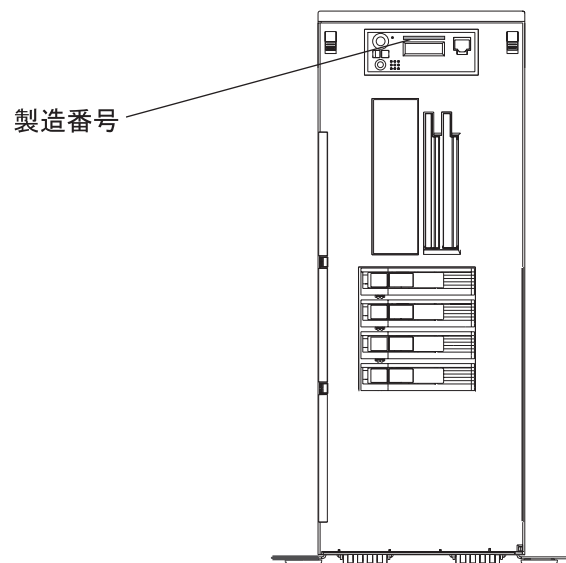
この付録はシステムの識別情報を記録しておくために使用します。

識別番号

次の情報を記録し保存しておいてください。

製品名	IntelliStation POWER 9114 モデル 275
製造番号	
かぎのシリアル番号	

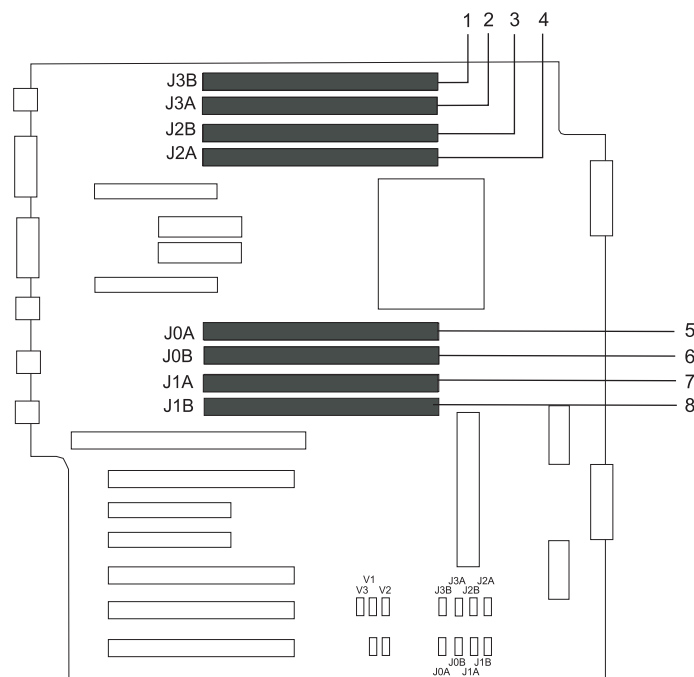
システム装置の製造番号は、機械の前面に付いています。次の図を参照してください。



デバイスの記録

次の表を使用して、システムに取り付けたり接続したりしたオプションの記録を保存してください。この情報は、システムに追加のオプションを取り付ける場合や、システムに保守サービスが必要になった場合に役立ちます。

メモリー・カード



- 1 メモリー DIMM 1 J3B
(U0.1-P1-M1)
- 2 メモリー DIMM 2 J3A
(U0.1-P1-M2)
- 3 メモリー DIMM 3 J2B
(U0.1-P1-M3)
- 4 メモリー DIMM 4 J2A
(U0.1-P1-M4)

- 5 メモリー DIMM 5 J0A
(U0.1-P1-M5)
- 6 メモリー DIMM 6 J0B
(U0.1-P1-M6)
- 7 メモリー DIMM 7 J1A
(U0.1-P1-M7)
- 8 メモリー DIMM 8 J1B
(U0.1-P1-M8)

注: 各メモリー DIMM スロットで選択可能なストレージ容量は 256 MB、512 MB、1024 MB または 2048 MB です。

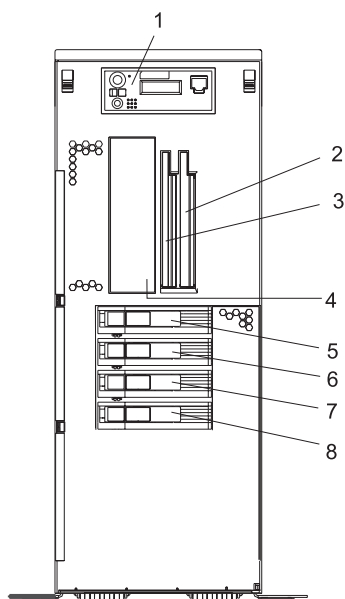
オプション

位置	オプションの説明
マウス・コネクタ	IBM マウス ☐ その他: _____
キーボード・コネクタ	コンパクト型 ☐ 拡張型 ☐ その他: _____
拡張スロット 6	_____
拡張スロット 5	_____
拡張スロット 4	_____
拡張スロット 3	_____
拡張スロット 2	_____
拡張スロット 1	_____
パラレル・ポート	_____
シリアル・ポート 1	_____
シリアル・ポート 2	_____
シリアル・ポート 3	_____
イーサネット 1	_____
イーサネット 2	_____

SCSI ID とベイ位置

次の図は IntelliStation POWER 9114 モデル 275 の SCSI ベイの位置を示しています。

モデル 275



索引	ドライブ名	SCSI ID	
1	オペレーター・パネル		
2	ディスクット・ドライブ または IDE 光ディスク・ドライブ	(U0.1-P1-X1/Q6-A1、光ディスク・ドライブ用)	
3	IDE CD-ROM (デフォルト) または IDE DVD-ROM (オプション)	IDE (SCSI ではない) (U0.1-P1-X1/Q6-A0)	
4	テープ・ドライブ (オプション)	SCSI ID 0	
	SCSI DVD-RAM (オプション)	SCSI ID 1	
5	ディスク・ドライブ 1	SCSI バス 0	SCSI ID 3
6	ディスク・ドライブ 2		SCSI ID 4
7	ディスク・ドライブ 3		SCSI ID 5
8	ディスク・ドライブ 4		SCSI ID 8

注:

- SCSI バス ID は推奨値で、システムが工場から出荷される際 ID がどのように設定されるかを示しています。フィールドでインストールする場合は、この推奨に従う必要はありません。
- IntelliStation POWER 9114 モデル 275 では、ディスク・ドライブ・バックプレーン 1 つが標準で 2 番目のバックプレーンが追加可能です。上の図でシステムは、バックプレーン 2 つ、ディスク・ドライブ 4 つのフル装備で示されています。
- メディア・ベイの位置インデックス 2 は、次のオプションのデバイスのどれか 1 つを収容するように設計されています。
 - IDE 光ディスク・ドライブ
 - ディスクット・ドライブ

メディア・ベイの位置インデックス 4 で使用される SCSI デバイスは、どれも PCI SCSI アダプターに接続しなければなりません。

付録 E. TTY ターミナル使用の際に必要な一般属性

次の一般属性は、診断プログラムのためのデフォルト設定値です。使用しているターミナルがこの属性に設定してあることを確認してください。

注: この属性は、診断プログラムをロードする前に設定しておかなければなりません。

セットアップの一般属性	3151 /11/31/41 の設定値	3151/51/61 の設定値	3161/3164 の設定値	説明
マシンのモード	3151	3151 PC	3161 または 3164	診断プログラムは、3161 ASCII ディスプレイ・ターミナルをエミュレートするように設定される。使用しているターミナルが 5085、3161、3164 ターミナルをエミュレートできる場合は、この属性を設定。そうでない場合は、使用ターミナルのオペレーター用マニュアルを参照し、そのターミナルの属性とここでの説明とを比較し、使用ターミナルの属性を適宜設定する。
生成されるコード・セット		ASCII		
画面	Normal	Normal		EIA-232 インターフェース・プロトコルを使用
行と列	24 x 80	24 x 80		EIA-232 インターフェース・プロトコルを使用
スクロール	Jump	Jump	Jump	最終行の最後の文字が入力されると、画面は 1 行下がる
自動 LF (改行)	Off	Off	Off	「オン」に設定するには、リターン・キーを押してカーソルを次の行の先頭文字位置に移動させる。「オフ」に設定するには、リターン・キーを押してカーソルを現在行の先頭文字位置に移動させる。復帰改行 (New Line) を設定すると、CR (復帰) と LF (改行) 文字が挿入されます。
CRT セーバー	Off	Off	10	「10」の設定で、10 分間何のアクティビティーもない場合、表示画面はブランクになる。システム装置がデータを送るか、あるいはキーが押されると画面の内容が再び表示される。
行の折り返し	On	On	On	ページ現在行の最終文字位置にきた後、カーソルはそのページの次の行の先頭文字位置に移動する。
強制挿入	Off	Off		
タブ	Field	Field	Field	列のタブ停止位置は無視され、フィールド属性文字位置によってタブ操作が行われる。

セットアップの 一般属性	3151 /11/31/41 の 設定値	3151/51/61 の設定値	3161/3164 の 設定値	説明
トレース			All	トレース・キーを押すと、メイン・ポートを通るインバウンド・データ (システム装置へのデータ) もアウトバウンド・データ (システム装置からのデータ) も、システム装置との交信を中断することなく補助ポートへ転送させることができる。

通信に関する追加の属性

次の通信属性は、3151、3161、3164 ターミナル用です。

通信のセットアップ 属性	3151/11 /31/41 の 設定値	3151 /51/61 の設定値	3161/3164 の 設定値	説明
操作モード	Echo	Echo	Echo	ターミナル・キーボードから入力されたデータは、システム装置に送信され変換された後、表示画面に送り戻される。 会話方式とも言う
回線速度	9600 bps	9600 bps	9600 bps	9600 bps (ビット / 秒) の回線速度でシステム装置と交信する。
ワード長 (ビット)	8	8	8	8 ビットをデータのワード長 (バイト) として選択。
パリティ	No	No	No	パリティ・ビットを追加せず、ワード長属性とともに 8 ビットのデータ・ワード (バイト) を形成する
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを追加する
ターンアラウンド文字	CR	CR	CR	復帰 (CR) 文字を、改行文字として選択する
インターフェース	EIA-232	EIA-232	EIA-232	EIA-232 インターフェース・プロトコルを使用
回線制御	IPRTS	IPRTS	IPRTS	permanent request to send (永続的な送信要求) (IPRTS) 信号により、システム装置と通信する。
ブレーク信号 (ms)	500	500	500	ブレーク・キーが押されると 500 ms 以内にターミナルはブレーク信号をシステム装置に送信する
ヌルの送信抑止	On	On		末尾のヌル文字はシステム装置に送信されない
ヌルの送信			On	末尾のヌル文字はシステム装置に送信される
応答遅延 (ms)	100	100	100	ターミナルはシステム装置の応答を 100 ms 待つ

キーボードに関する追加の属性

次のキーボード属性は、3151、3161、3164 ターミナルに接続されているキーボード用です。

キーボードのセット アップ属性	3151/11 /31/41 の 設定値	3151/51/61 の設定値	3161/3164 の 設定値	説明
Enter	Return	Return	Return	Enter (実行) キーはリターン・キーとして機能する
Return	New line	New line	New line	リターン・キーを押すとカーソルは次の行に移動する
New line	CR	CR	CR	リターン・キーを押すと、キャリッジ・リターン (CR) 文字と改行 (LF) 文字が挿入される。CR 文字と LF 文字が挿入された後に改行が行われる。
送信	Page	Page	Page	Send キーを押すと、現行ページの内容がシステム装置に送信される
文字挿入	Space	Space	Space	Insert (挿入) キーを押すとブランク文字が挿入される

プリンターに関する追加の属性

次のプリンター属性は、3151、3161、3164 ターミナルに接続されているプリンター用です。

プリンターのセット アップ属性	3151/11 /31/41 の 設定値	3151/51/61 の設定値	3161/3164 の 設定値	説明
回線速度	9600	9600	9600	19200 または 9600 bps (ビット / 秒) の回線速度でシステム装置と交信する。
ワード長 (ビット)	8	8	8	8 ビットをデータのワード長 (バイト) として選択。
パリティ	Even	Even	No	
ストップ・ビット	1	1	1	データ・ワード (バイト) の後に 1 ビットを追加する
文字	ALL	ALL		
行末			CR-LF	
印刷			View port	
EOL の印刷			Off	
ヌルの印刷			Off	

付録 F. ファームウェアの更新

システムのファームウェア・レベルを判別する

注: ここでの情報は、次の Web サイトで得られる情報で置き換えられることがあります。

<http://www.rs6000.ibm.com/support/micro> 常に Web サイトをチェックして、最新のイメージとファームウェア・レベルをチェックするための指示を入手するようにしてください。

ファームウェア・レベルは vFyymmdd で表示されます。ここで v = バージョン番号、F = システムの指定ファームウェア、yy = 年、mm = 月、dd = リリースした日を示しています。

システムで稼働しているのが AIX であれば、ファームウェア・レベルは次のいずれかの方法で判別することができます。

- AIX コマンド行で次を入力します。

```
lscfg -vp|grep -p Platform
```

ROM level (alterable).. で始まる行が、システム上にあるファームウェアの現レベルを示しています。

- サービス・プロセッサのメインメニューの先頭を見ます。

システムで稼働しているのが Linux であれば、プラットフォームのファームウェア・レベルは次のいずれかの方法で判別することができます。

- Linux コマンド行で次を入力します。

```
/usr/sbin/ibmras/nvram/ --print-vpd | grep 3F
```

次の行で、システム上の現在のファームウェア・レベルが示されます。

```
Alterable ROM Level 3F030504
```

- サービス・プロセッサのメインメニューの先頭を見ます。

ローカルで使用可能なイメージを使ってシステム・ファームウェアを更新する

ローカルで使用可能なイメージを使用してシステム・ファームウェアを更新するには、次のステップを実行します。

1. root ユーザーとしてログインします。
2. ディレクトリー **/tmp/fwupdate** がない場合は、次のコマンドを実行して作成してください。

```
mkdir /tmp/fwupdate
```

3. ファームウェア更新ファイルが、システムの **/tmp/fwupdate** ディレクトリーにダウンロードまたはコピーされます。 そのためには、**ftp** コマンドで ftp サーバーからイメージを入手するか、または、ホスト・システムのディレクトリーを NFS マウントします。

ファームウェア更新済みファイルは、イメージを他のサーバーのディスクにバックアップし、それを **/tmp/fwupdate** ディレクトリーに復元して、ターゲット・システムに転送することもできます。

ファームウェアの更新ファイルが **/tmp/fwupdate** ディレクトリーにダウンロードまたはコピーされた後、次のコマンドを実行して書き込まれたことを確認します。

```
ls /tmp/fwupdate/3F*.img
```

更新ファイルは、次のフォーマットになっています。 3Fyyymmdd.img 3F は、これが該当システム用の更新イメージであることを示し、yy は年を、mm は月を、dd は日を、それぞれ更新ファイルについて示します。

4. ファームウェアの更新ファイルが **/tmp/fwupdate** ディレクトリーに書き込まれた後、次のコマンドを入力します。

```
cd /usr/lpp/diagnostics/bin  
./update_flash -f /tmp/fwupdate/3Fyyymmdd.img
```

重要: 上記コマンドに、ピリオド (.) を忘れずに入れてください。 AIX コマンドは大文字小文字の区別をします。示されている通りに正確に入力してください。

ファームウェア更新を続行することの確認と必要なリブートが要求されます。確認を与えると、システムは新しいファームウェアを適用し、リブートを行い、AIX プロンプトに戻ります。この動作はシステム構成により異なりますが、最長で 10 分間を要します。

重要: システムによっては、システム・コンソールに Wait for rebooting before stopping のメッセージが表示されることがあります。システムがリブートを完了し AIX ログイン・プロンプトが出るまでシステムの電源を切らないでください。その時点でシャットダウンが必要な場合は、root ユーザーでログインし、**shutdown** コマンドを出してください。

更新が行われている間、Rebooting... が数分間表示されます。

ファームウェア更新はこれで完了です。

索引

日本語、数字、英字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

【ア行】

アダプター 30
 取り外し 30
 取り替える 33
アダプター・ケーブル
 接続する 9
安全上の注記 vii, 3
安定脚
 取り付ける 5
イーサネット接続 10
オプションを取り付ける 25
 システム装置を停止させる 25
 システムを始動する 14, 25
オペレーティング・システム資料、AIX 13
オンライン資料 xiii

【カ行】

カバー 29
 取り外し 29
 元のように取り付ける 29
関連資料 xiii
キーボードとマウス
 接続 7
給電部 4
強調表示 xiii
記録、デバイスの 70
グラフィック・ディスプレイ
 接続する 6
検証、システムの 15, 21
 その他の 21
構成
 クライアント 19
 NIM サーバー 19
構成解除する
 ディスク・ドライブ 49
コンソール、ディスプレイ・タイプ 5

【サ行】

システム
 検証
 実行する 21

システム (続き)
 停止する 25
システム、始動する 14, 25
システム、セットアップする 1
システム装置を停止させる 25
システムの記録 69
 かぎのシリアル番号 69
 製造番号 69
 マシン・タイプ/モデル 69
システムをセットアップする 1
商標 xiv
情報、利用する xiii
情報を利用する xiii
シリアル・デバイスとパラレル・デバイス
 接続 8
資料 15, 22
 オペレーティング・システム 15, 22
 オンライン xiii
 ハードウェア 15, 22
 利用する xiii, 15
 AIX 15, 19, 22, 36, 49, 50, 62
資料、利用する 22
資料を利用する 22
 オペレーティング・システム 22
 ハードウェア 22
診断 17
 スタンドアロン
 NIM サーバー 18
 停止する 21
 ハードウェアを検証する 17
 ロードする 18
診断に必要な TTY ターミナル属性 75
スタンドアロン診断プログラム
 NIM サーバー 18, 19
静電気の影響を受けやすいデバイスの取り扱い 24
製品の廃棄 65
接続する
 アダプター・ケーブル 9
 キーボードとマウス 7
 グラフィック・ディスプレイ 6
 シリアル・デバイスとパラレル・デバイス 8
セットアップ、完了 13
前面ドア
 取り外し 26
 元のように取り付ける 27

[タ行]

- チェックリスト、品目 1
- 注記、安全 3
- 停止する
 - 診断 21
- ディスク・ドライブ
 - 構成解除する 49
- ディスク・ドライブ・バックプレーン 54
- ディスプレイ、タイプ 5
- デバイスの記録 70
 - 内蔵および外付けのオプション 70
- 電気に関する安全 vii
 - 電気に関する vii
 - レーザーの適合性 ix
- 電源オン・ボタン・ガード
 - 取り付ける 12
- 電源機構、取り付け 42
- 電源機構を取り付ける 42
- 電源ケーブル 11, 13
- 電源コンセント 13
- 取り外し 29
 - アダプター 30
 - 静電気の影響を受けやすいデバイス 24
 - 前面ドア 26
 - 注意と危険 23
 - ベゼル (モデル 275) 28
 - 保守用カバー 29
- 取り外しと取り替えの手順 23
 - アダプター、追加または取り替え 33
 - アダプター、取り外し、ホット・プラグ可能でない 30
 - アダプター、PCI 30
 - カバー 29
 - 側面カバーを元のように取り付ける 29
 - ディスク・ドライブ 43
 - ディスク・ドライブ、ホット・プラグ 49
 - ディスク・ドライブ、ホット・プラグ取り付け 53
 - デバイス、静電気の影響を受けやすい 24
 - 電源機構 39
 - 電源機構、ホット・スワップでない取り外し 39
 - 電源機構、ホット・スワップでない取り替え 41
 - バッテリー、取り替える 61
 - ファン 35
 - ファンの取り外し、ホット・スワップ 35
 - ファンの取り替え、ホット・スワップ 35
 - ベゼル 28
 - ベゼルの取り外し 28
 - ベゼルを元のように取り付ける 28
 - ベゼル・ドア 26
 - ベゼル・ドアの取り外し 26
 - ベゼル・ドアを元のように取り付ける 27

取り外しと取り替えの手順 (続き)

- 保守用カバーを外す 29
- メディアの取り外し 44
- メディアの取り替え 44
- メディア・ドライブ 43
- メディア・ベイ・シャシー 46
- メモリー DIMM 56
- メモリー DIMM の取り外し 58
- メモリー DIMM の取り替え 56
- CD-ROM ドライブ 43
- PCI アダプター 30

取り付ける

- 安定脚 5
- 電源オン・ボタン・ガード 12
- 防音カバー 12

トロイド、ディスプレイ 6

[ナ行]

- 内蔵イーサネット、接続 10
- 内蔵イーサネットを接続する 10
- 人間工学についての情報 xiv

[ハ行]

ハードウェア

- 検証
 - 考慮事項 17
- ハードウェア操作を検証する 17
- バッテリー 61
 - 廃棄、リサイクル 65
- 品目 1
- ファームウェア 79
 - 更新 79
 - レベル 79
- ファンの取り外し、ホット・スワップ
 - 取り外し 35
- ファンの取り替え、ホット・スワップ
 - 取り替える 35
- ファン・トレイ 36
- ベゼル (モデル 275) 28
 - 取り外し 28
- 防音カバー
 - 取り付ける 12
- 放出騒音 65
- ホット・プラグ・ディスク・ドライブ 49
 - 取り外し 51
 - 取り替える 53

[マ行]

メディア・ドライブ 43
 取り外し 44
 取り替える 44
メモリー DIMM 58
元のように取り付ける 29
 アダプター 33
 前面ドア 27
 保守用カバー 29
 ホット・プラグ・ディスク・ドライブ 53
 メディア・ドライブ 44

[ラ行]

リサイクル 65
レーザーの安全上の注意 ix
レーザーの適合性 ix

A

AIX オペレーティング・システムの資料 13
AIX 資料 15, 19, 22, 36, 49, 50, 62

N

NIM サーバー
 構成 19
 クライアント 19
 スタンドアロン診断プログラム 18

S

SCSI ドライブ 44
SCSI メディア・デバイス
 電源ケーブル 44
 SCSI ケーブル 44

T

TTY ターミナルに必要な属性 75
TTY ターミナルの属性
 一般 75

W

Web サイト 4
 人間工学についての情報 xiv
 ファームウェアの更新 79
 マイクロコードの更新 79
AIX 資料 15, 19, 22, 36, 49, 50, 62
healthy computing 4



部品番号: 80P2555

Printed in Japan

SA88-8774-00



日本アイ・ビー・エム株式会社
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: 80P2555

